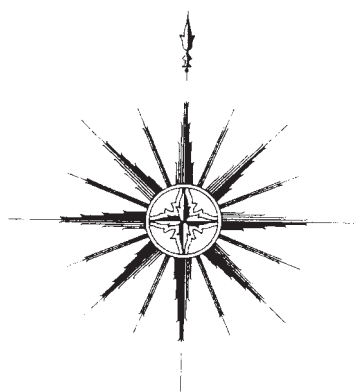


研究活動報告
(2018年4月～2019年3月)



凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

文化財論講座

杉山 祐子

(1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH: Folk Innovation History, or LIH: Local Innovation History)、開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 杉山祐子「もめごとを祖霊の世界に託して—焼畑農耕民の「考えかた」—」『遊牧の思想』 pp.20-31、単著、2019年3月
- 白石社一郎・杉山祐子・近藤史「人類学の挑戦」『ポスト地方創生～大学と地域が組んでどこまでできるか』 pp.124-160、共著、2019年3月11日
- 杉山祐子「鋸と鋏とりんご栽培」『大学的青森ガイド』 pp.188-207、単著、2019年3月30日
- Yuko SUGIYAMA「Ancestral Spirits, Witchcraft and Phases of the Other in Everyday Life: The Case of the Agricultural Bemba People of Zambia」『Others』 pp.245-271、単著、2019年3月

[その他]

- 杉山祐子「「わかる」と「できる」をつなぐプロジェクト—在来知をともにつくる試み—」『やま・かわ・うみの知をつなぐ—東北における在来知と環境教育の現在』 pp.257-264、単著、2018年6月30日
- 杉山祐子「カンボジア農村に暮らすメマーイ～貧困に陥らない社会の仕組み～」『アジア経済』第59巻、第3号、pp.58-63、単著、2018年9月
- 杉山祐子・日比野愛子 他「「地域の持続性に向けた共創手法の構築」プロジェクト」『平成30年度 弘前大学特定プロジェクト教育研究センター 地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.39-44、共著、2019年2月
- 地域未来創生プロジェクト「地域の持続性に向けた共創手法の構築」2018年5月～2019年3月
- フィールドワーク「『動く身体』から見る在来知」
- フィールドワーク「地域における農産物直売所・市の役割と小規模アグリビジネスの可能性」

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 杉山祐子「農村における小規模な現金獲得活動の現代的諸相」日本アフリカ学会、北海道大学、2018年5月26日
- 杉山祐子「ドモマにおける都市化の進展と現金獲得活動調査報告」『アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と在来の技術革新史への視角』研究班、アソベの森いわき荘会議室、2018年11月3日～2018年11月4日
- 杉山祐子「グローバル化するアフリカ農村と現金の社会化をめぐる人類学的研究課題研究会」『アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と在来の技術革新史への視角』研究班、宇都宮大学国際学部大会議室、2019年2月9日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と「在来の技術革新史」への視角」(研究代表者) 2018～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所「人類の進化史的基盤研究 (4)」2014～2018年度
- 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所「アフリカ農業・農村社会史の再構築：在来農業革命の視点から」2016～2018年度
- 農山漁村「地域経営」

宮坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- レバノンのローマ壁画
- カタコンバ

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 宮坂朋「古代ローマの怖い絵—初期キリスト教美術の残虐場面」『人文社会科学部 国際公開講座2018 資料集』pp.19-37、単著、2018年11月3日
- 宮坂朋「カタコンベの異教神：古代末期の宗教観」『弘前大学人文社会学部人文社会論叢』第35号、pp.1-16、単著、2019年2月28日
- 宮坂朋「古代末期におけるモニュメンタルな残虐場面」『第25回ヘレニズム～イスラーム考古学研究』第25号、pp.49-70、単著、2018年12月
- 宮坂朋「ヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画の様式」『弘前大学人文社会学部人文社会論叢』第34号、pp.1-17、単著、2018年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 宮坂朋「古代末期壁画における公的要素：アンノーナとローマ公共浮彫」第25回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会、単独、金沢大学地域連携推進センター、2018年7月21日～22日

[講演]

- 宮坂朋「古代ローマの怖い絵—初期キリスト教美術の残虐場面—」弘前大学人文社会科学部 国際公開講座 2018、単独、弘前大学人文社会科学部、2018年11月3日講
- 宮坂朋「ギャラリートーク キリスト教以前のお墓」、弘前大学資料館第21回企画展示「古代地中海の死後の世界 壁画と副葬品にみる死生観」、弘前大学資料館、2018年10月20日
- 宮坂朋「ギャラリートーク キリスト教のお墓」、弘前大学資料館第21回企画展示「古代地中海の死後の世界 壁画と副葬品にみる死生観」、弘前大学資料館、2018年12月25日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- イタリア/ローマ、ローマ時代の壁画に関する資料調査、2018年9月6日～24日
- イタリア/ローマ、ローマ時代の壁画に関する資料調査、2019年3月13日～27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「古代性の指標としての様式—東地中海世界における古代末期壁画様式研究—」(研究代表者) 2018～2020年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 展示企画「古代地中海の死後の世界 壁画と副葬品にみる死生観」、弘前大学資料館第21回企画展示弘前大学資料館第21回企画展示、弘前大学資料館、10月19日～12月25日

山田 巖子

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 山田巖子編『博物館的想像「力」：渋沢敬三と今和次郎 民具学考現学と青森県』共著 2019年3月、弘前大学地域未来創生センター
- 山田巖子「渋沢敬三影響下の地方民間博物館—『声のレコード』をめぐって—」川島秀一編『渋沢敬三 小さき民へのまなざし』分担執筆 pp.25-30、2018年12月、アートアンドクラフツ
- 山田巖子「聖地と民俗—」羽濑一代編『大学的青森ガイド』分担執筆 pp.182-185、2019年3月、昭和堂
- 山田巖子「ケッカイ」森隆男編『住の民俗事典』分担執筆 2019年 pp.25-31 2019年2月26日、柘風舎
- 山田巖子「想起の技法：経験と発話の民俗学へ」佐藤健二先生・高木史人先生還暦記念民俗学講習会編・発行『記念誌 佐藤健二先生・高木史人先生還暦記念民俗学講習会』分担執筆 2018年 pp.26-36

2018年

[論文]

- 山田巖子「人形儀礼と「語彙」—津軽地方のオシラ神をめぐって—」『口承文芸研究』第42号、pp.192-201、2019年

[研究ノート・その他]

- 山田巖子「地方における民間博物館への『まなざし』—渋沢敬三の声のレコードから—」『日本民俗学』第296号、

pp.179-180、単著、2018年

- 山田巖子「念仏鶏舞」『北海道・東北ブロック民俗芸能大会記録』第60号、pp.24-27、2019年2月
- 山田巖子、渡辺麻里子「地域の民俗・文献史料など、文化資源の調査研究と公開および地域ネットワークの構築 5」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.45-57 共著 2019年2月
- 山田巖子「『説話』に刻まれた「近代」「足許からの近代」を庶民信仰の場から問うた好著」『図書新聞』第3372号、pp.4、単著、2018年10月27日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 山田巖子「地方における民間博物館への『まなざし』」日本民俗学会、単独、成城大学、2018年7月8日
- 山田巖子「祭祀者の身体と人形儀礼 東北におけるオシラ神をめぐる一」単独、関西福祉大学、2018年6月3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「地方における『民俗』思想の浸透と具現化—淡沢敬三影響下の民間博物館—」(研究代表者 山田巖子) 2017~2019年度
- 基盤研究 (C)「人形芝居における儀礼の復活と門付の伝統に関する研究—淡路人形芝居を中心として—」(研究代表者 姜竣) 2016~2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「野辺地町祭礼と民俗調査」2018年7月~2019年3月
- 人間文化研究機構連携研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」(代表者 小池淳一) 2017年度~2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「弘前大学寄託旧小川原湖民俗博物館旧蔵資料展示『資源化への道』」2018年8月8日 弘前大学人文社会科学部1階演習室
- 弘前大学図書館モバイル展示(国立歴史民俗博物館、国立国語研究所連携企画)「方言の世界」(2018年5月28日~6月15日)「文化財レスキューの現場—津波被害の民家から—」(6月25日~7月13日)担当授業「地域文化振興論」(山田巖子担当回)／「地域文化振興実習」(川瀬卓担当回)と連動

関根 達人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文 中近世考古学 北方史 石造物

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人『墓石が語る江戸時代—大名・庶民の墓事情』、単著、2018年4月1日、吉川弘文館歴史文化ライブラリー464

[論文]

- 関根達人・近藤美左紀・柴正敏「胎土中の火山ガラス分析から見た十和田テフラと早期中葉の縄文土器編年(予察)」『研究紀要』第8巻、pp.1-9、共著、2019年3月31日、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
- 関根達人「若狭小浜藩主酒井家の墓制 江戸と国元、本葬と分霊」『人文社会科学論叢』第6号、pp.17-45、単著、2019年2月29日、弘前大学人文社会科学部
- 関根達人・佐藤雄生「北前船で運ばれた色絵の器 北海道・東北地方出土の色絵磁器」『東北・北海道に渡った九谷焼』pp.14-19、共著、2018年10月9日、石川県九谷焼美術館
- 関根達人「酒とタバコからみた蝦夷地の内国化に関する研究」『公益財団法人たばこ総合研究センター平成29年度助成研究報告』pp.59-78、単著、2018年10月、公益財団法人たばこ総合研究センター
- 関根達人・長澤正之「大堀相馬焼手捻り雅物考」『いわき地方史研究』第55号、pp.46-56、共著、2018年10月21日、いわき地方史研究会
- 関根達人・近藤美左紀・柴正敏「火山ガラス分析による道東出土の亀ヶ岡系土器・晩期縄文土器の製作地推定」『釧路市立博物館館報』第422号、pp.3-8、共著、2018年9月30日、釧路市立博物館
- 関根達人「北方のアイヌと和人」『考古学ジャーナル』第715号、pp.14-18、単著、2018年8月30日、ニューサイエンス社
- 関根達人「アイヌ文化を特徴づけるモノ」『民衆史の遺産』第13巻、pp.746-779、単著、2018年7月1日、大和書房
- 関根達人・木戸奈央子「越後産焼酎徳利(「松前徳利」)の生産と流通」『中近世陶磁器の考古学』第8巻、pp.245-267、共著、2018年5月25日、雄山閣

[その他]

- 関根達人「考古学者と行く「北のまほろば」」『大学的青森ガイド』p.73-83、単著、2019年3月30日、昭和堂
- 関根達人編「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築 平成26～30年度科学研究費基盤研究A研究成果報告書」『弘前大学人文社会科学部文化財論研究室』p.1-160、共著、2019年2月26日、弘前大学人文社会科学部文化財論研究室
- 関根達人編「若狭小浜湊の中近世石造物」『若狭小浜湊の中近世石造物』第pp.1-205、共著、2018年7月27日、弘前大学人文社会科学部文化財論研究室
- 関根達人編「松前藩福山城下町の考古学的研究1」『松前藩福山城下町の考古学的研究1』pp.1-150、共著、2018年8月10日、弘前大学人文社会科学部文化財論研究室

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人「墓石調査の視点と方法」葬墓制からみた琉球史研究会、単独、沖縄国際大学、2019年3月24日
- 関根達人「アイヌ民族と酒 漆器>陶磁器の価値観」九州近世陶磁学会、単独、江戸遺跡研究会・関西近世考古学研究会、大阪歴史博物館、2019年2月9日
- 関根達人「北海道松前町福山城下町遺跡（旧小松前町地点）発掘調査概要」南北海道考古学情報交換会、上ノ国町総合福祉センター、2018年12月2日
- 関根達人「大名墓における本葬・分霊・改葬」大名墓研究会、単独、就実大学、2018年10月13日
- 関根達人・柴正敏「沖縄県北谷町平安山原B遺跡出土の亀ヶ岡系土器の製作地と製作者」東北史学会、共同、弘前大学國史研究会、弘前大学、2018年10月7日
- 関根達人「酒とタバコからみた蝦夷地の内国化に関する研究」公益財団法人たばこ総合研究センター、単独、東海大校友会館、2018年8月9日
- 関根達人「墓石にみる小浜・敦賀・三国と松前三湊」科研費基盤A[石造物研究に基づく新たな中近世史の構築]研究グループ、敦賀市立博物館、2018年8月4日
- 片岡太郎・澤田美咲・上條信彦・関根達人「縄文時代晩期の藍胎漆器の編組技法—宮城県栗原市山王圀遺跡出土藍胎漆器を中心として」日本考古学協会、共同、明治大学駿河キャンパス、2018年5月27日
- 関根達人・柴正敏・近藤美左紀「火山ガラス分析による道央・道東出土の亀ヶ岡系土器・晩期在地系土器の製作地推定」日本考古学協会、共同、明治大学駿河台キャンパス、2018年5月27日

[講演]

- 関根達人「北海道・北東北の縄文遺跡群の魅力と世界遺産登録への課題」静岡新聞社SBS学苑古代史探訪、SBS学苑静岡駅ビルバルシェ校・浜松遠鉄校、2019年3月30・31日
- 関根達人「アイヌ民族の酒とタバコ」公開講演会「考古学・人類学とアイヌ民族—ヒトと暮らしを探る—」、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京、2019年1月27日
- 関根達人「墓石が語る江戸時代」日本石材産業協会青森県支部平成31年1月講演会、アートホテル弘前シティ、2019年1月25日
- 関根達人「墓石が語る江戸時代」やまと石材セミナー、青森国際ホテル、2018年12月13日
- 関根達人「北前船で運ばれた色絵の器—北海道・東北地方出土の色絵磁器—」平成30年度特別展「東北・北海道に渡った九谷焼」記念講演会、石川県九谷焼美術館、2018年11月18日
- 関根達人「北谷町出土の亀ヶ岡系土器—誰がどこで作ったのか—」平成30年度北谷町企画展「北谷の縄文」公開講演会、ちゃたんニライセンター、2018年11月11日
- 関根達人「石造物が語る日本海交易と松前湊」平成30年度松前町歴史講演会、松前町民総合センター、2018年11月3日
- 関根達人「紙に書かれた歴史・書かれなかった歴史」第31回濱田青陵賞受賞記念講演会、弘前大学、2018年10月27日
- 関根達人「紙に書かれなかった中世・近世の歴史」第31回濱田青陵賞記念シンポジウム、岸和田市立文化会館、2018年9月23日
- 関根達人「考古学的なモノの味方で歴史をひもとく—縄文土器から墓石まで—」ひろだいナビゲートキャラバン、2018年9月11日、青森県立三本木高校

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」(研究代表者) 2014～2018年度
- 基盤研究 (B)「サハリニアイスの総合的研究：その成立と変貌」(研究分担者) 2017～2021年度
- 挑戦的研究 (萌芽)「火山ガラス分析による新たな土器研究法の開拓」(研究代表者) 2017～2019年度
- 基盤研究 (B)「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」(研究分担者) 2016～2020年度

- 三菱財団研究助成金「近世国家北方領域境界域における物資流通に関する考古学的研究」((研究代表者) 2017.10~2018.9)
- (7)共同研究、受託研究など
- 八戸市是川縄文館共同研究「火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明」2018~2019年度
 - 宮城県栗原市との共同研究「宮城県栗原市山王冨遺跡出土漆器の研究」2015~2019年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [それ以外のもの]
- 第31回濱田青陵賞、岸和田市・朝日新聞社、2018年9月23日

足達 薫

- (1)現在の研究テーマ
- イタリアのルネサンス美術における魔術との同調現象。
- (2)著書、論文、その他
- [著書]
- 足達薫、遠山公一、喜多村明里、出佳奈子、金山弘昌、伊藤博明『イタリア美術叢書II 光彩のアルストピア レオナルド・ダ・ヴィンチからミケランジェロへ』、共著、2019年2月1日、ありな書房
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (C)「マニエリスム形成期における記憶術の影響についての研究」(研究代表者) 2014~2018年度

上 條 信 彦

- (1)現在の研究テーマ
- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究
- (2)著書、論文、その他
- [著書]
- 上條信彦編『岩木山麓における弥生時代前半期の研究』、2019年3月28日、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
 - 小泉翔太・田中克典・上條信彦『日本の出土米IV 東日本出土米の粒形質・DNA分析』、2019年3月25日、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
- [論文]
- 上條信彦・田中克典・小泉翔太・川畑誠「北陸地方の出土イネの歴史の変遷—石川県域を中心に—」『石川県埋蔵文化財情報』第40号、pp.37-49、2019年1月10日
 - 上條信彦「若生貝塚礫石器の残存デンプン粒分析」『北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究』pp.121-124、2018年6月30日
 - 上條信彦「水稻農耕定着段階における九州出土米の粒形質変異」『九州考古学』第98号、pp.1-21、2018年11月24日
- [その他]
- 長田友也・阿部明義・上條信彦他「2017年縄文時代関係文献目録」『縄文時代』第29巻、2018年5月26日
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- 片岡太郎・澤田美咲・上條信彦・関根達人「縄文時代晩期の籃胎漆器の編組技法 宮城県栗原市山王冨遺跡出土籃胎漆器を中心として」日本考古学協会第84回総会、明治大学駿河台キャンパス、2018年5月25・26日
 - 上條信彦「東北地方の稲作の展開と農耕空間の形成」日本考古学協会2018年度静岡大会、静岡大学、2018年11月4日
 - 上條信彦・田中克典・小泉翔太「形態・DNA分析からみた出土イネの歴史的遷移」第35回日本文化財科学学会大会、奈良女子大学、2018年7月7・8日
 - 片岡太郎・上條信彦・鹿納晴尚・佐々木理「考古学調査からみた遺跡出土有機質遺物の保存処理方法の選択性について～土壌ごと保存処理された縄文時代の漆器のX線CT観察を通して～」第35回日本文化財科学学会大会、奈良女子大学、2018年7月7・8日
 - Kamijo Nobuhiko「Subsistence Strategies at the Tianluoshan Site,Zhejiang, China, Reconstructed by Starch Residue Analyses」Eighth Worldwide Conference of the SEAA、南京大学、2018年6月9~11日
 - Kamijo Nobuhiko,Jin Guiyun「The Process of Accepting Rice Cultivation in Shandong Peninsula as Seen from the Rice Grain Shapes」Eighth Worldwide Conference of the SEAA、南京大学、2018年6月8~11日
 - 上條信彦「弥生時代開始期の炭化米の粒度分析」日本考古学協会第84回総会、明治大学駿河台キャンパス、2018年5月26・27日

- 上條信彦・孫国平「田螺山遺跡石器・木杵の使用痕・残存デンプン粒分析から見た食料資源利用」日本中国考古学会2018年度大会、奈良県立橿原考古学研究所、2018年11月4日
 - 上條信彦「日本全国のイネ形態分析からみた東日本のイネの特徴」ここまで分かった！東日本における農耕文化の展開、弘前大学、2018年11月23日
 - 上條信彦「砂沢遺跡・清水森西遺跡の発掘調査の成果」ここまで分かった！東日本における農耕文化の展開、弘前大学、2018年11月23日
- (4)学外集中講義など
- 第6回地域未来創生塾「青森の縄文時代が実はすごかったという話」12月26日：弘前文化センター
 - 八戸東高校出前講義「ここまで分かった！縄文時代の暮らし」10月2日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- 中国浙江省田螺山遺跡における先史石器研究
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究（B）「冷温帯地域における稲作の歴史的展開」（研究代表者）2016～2018年度
 - 基盤研究（B）「東北アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究」（研究分担者）2015～2018年度
 - 新学術領域研究「イネの栽培化と植物質食料資源の開発」（研究分担者）2015～2019年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 大阪府弥生文化博物館「佐藤コレクション出土米の分析」
 - 五所川原市教育委員会「東北日本沿岸の亀ヶ岡文化の研究」
 - 鳥根県埋蔵文化財センター「青谷上寺地遺跡からみた弥生時代のイネ品種分析」
 - 兵庫県立考古博物館「玉津田中遺跡からみたイネ品種の歴史的展開」
 - 平川市連携調査研究事業「文化財を活かした魅力発信事業」
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 2018年度弘前大学北日本考古学研究センター企画展『津軽に稲作がやってきた！本州北限の水稻農耕文化』10月6日～11月11日
- [それ以外のもの]
- JSPS 科研費 基盤研究（A）「東日本における食糧生産の開始と展開の研究—レプリカ法を中心として—」JSPS 科研費基盤研究（B）「冷温帯地域における稲作の歴史的展開」ジョイント科研総括シンポジウム「東日本における農耕文化の展開」、弘前大学、11月23・24日

片岡太郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 片岡太郎『福島県荒屋敷遺跡の漆工芸』、単著、2019年3月28日、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター

[その他]

- 片岡太郎「【コラム】縄文の手工芸を楽しむ【コラム】津軽の教会建築巡り」『大学的青森ガイドこだわりの歩き方』単著、2019年3月30日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 木村文香、片岡太郎「文化施設における文化財害虫防除を目的としたライトトラップの有効性について ヒメカツオブシムシの光応答性から見て」日本文化財科学会第35回大会、共同、奈良女子大学、2018年7月6日～2018年7月8日
- 山岸洋貴、片岡太郎、石川隆二「日本産ヒシ属植物集団の遺伝的多様性に関する研究」日本生態学会第66回大会、共同、神戸国際会議場、2019年3月15日～2019年3月19日
- 片岡太郎、上條信彦、鹿納晴尚、佐々木理「考古学調査からみた遺跡出土有機質遺物の保存処理方法の選択性について—土壌ごと保存処理された縄文時代の漆器のX線CT観察を通して—」日本文化財科学会第35回大会、共同、奈良女子大学、

2018年7月6日～2018年7月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A) 「被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究」(研究分担者) 2014～2018年度

- 基盤研究 (B) 「X線CTを使った縄文時代の漆器製作技術の体系化」(研究代表者) 2016～2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 木村文香, 片岡太郎 「第十二回日本文化財科学会ポスター賞」 日本文化財科学会、2018年7月8日

思想文芸講座

李 良

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李梁 「第2部:自然観・自然哲学と文化的背景」新しい科学の概念をもとめて—東アジア科学文化の未来—、単独、中部大学、2018年10月6日

(7)共同研究、受託研究など

- 国際共同研究 「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究:キリシタン文学の発展と継承」(分担者)、2014年10月～2021年3月
- 国際共同研究 「比較のなかの東アジア王権論と秩序構想—王朝・国会、または宗教・儀礼—」(分担者)、2016～2020年度

今 井 正 浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典学
- 西洋古代哲学・思想史
- ヨーロッパ古典文化論
- 人体の中枢器官をめぐる論争史をとしてみた西洋古代の人間観の展開の解明
- 精神疾患の病理をとしてみた西洋古典古代の人間観の特質の解明

(2)著書、論文、その他

[論文]

- IMAI Masahiro, Diocles of Carystus and Hippocratic Medicine in the History of Psychopathological Arguments of Ancient Greece, *Studies in the Humanities and Social Sciences*, No.6 (『人文社会科学論叢』第6号), pp.61-79.

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 今井正浩 「プラクサゴラスと古代ギリシアの医学思想における「プネウマ」理論の展開」
日本科学史学会第65回年会 (2018年5月26日・27日/東京理科大学)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 研究課題名 「精神疾患の病理を通してみた西洋古典古代の人間観の特質を解明するための実証的研究」(研究代表者) 2016年度～2018年度
- 研究課題名 「動物の生殖発生をめぐる論争史を通してみた西洋古代の人間観の思想文化史的解明」(研究代表者) 2019年度～2021年度

泉 谷 安 規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 泉谷安規「アンドレ・ブルトン『通底器』における夢の記述の一読解の試み(Ⅱ)」『人文社会科学論叢』第5号、pp.17-34、単著、2018年8月31日

横 地 徳 広

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 横地徳広ほか『映画で考える生命環境倫理学』、共編者、2019年2月9日、勁草書房

[論文]

- 横地徳広「ハイデガー『ソピステス』講義における「実践的推論」と「知慮」の解釈について」『日本現象学会編『現象学年報』』第34号、単著、2018年11月10日
- 横地徳広「ハイデガー、ウォルトン、アリストテレス:虚実とアスペクト知覚の諸問題」『フィルカル』第4巻、第1号、単著、2019年3月31日
- 横地徳広「ハイデガーとウォルトン:虚実複合の世界が私に開かれる仕方」『弘前大学人文社会科学部編『人文社会論叢』』単著、2019年2月29日
- 横地徳広「意味への問いと、ハイデガー、アレント:推論、問答、真性化の観点から」『東北大学研究会編『思索』』第51号、単著、2018年10月20日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 横地徳広「アレントとハイデガー:〈一と多〉をまなざす思索」日本政治学会、関西大学、2018年10月14日

原 克 昭

(1)現在の研究テーマ

- 日本思想史、宗教文芸と学問注釈史に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 原克昭「中世日本紀」、遠藤慶太・河内春人・関根潤・細井浩志編『日本書紀の誕生—編纂と受容の歴史』、pp.401-420、単著、2018年5月、八木書店
- 原克昭「『本朝事始』再勘——重層する仮託の故実学——」、前田雅之編『画期としての室町—政事・宗教・古典学』、pp.297-311、単著、2018年10月、勉誠出版

[その他、解題]

- 原克昭「新鍬天時占候」「御製暦象考成上編」「御製暦象考成表」「談天」、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第5集、pp.184-200、単著、2019年3月、弘前大学人文社会科学部
- 原克昭「〔野沢法脈譜〕」「薄草子口決」、深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第1集、pp.65-76、pp.107-114、単著、2019年3月、弘前大学人文社会科学部

[その他、書評]

- 原克昭「書評:小峯和明著『遣唐使と外交神話——『吉備大臣入唐絵巻』を読む』」、『立教大学日本文学』第121号、pp.441-443、単著、2019年3月、立教大学日本文学会

[その他、エッセイ]

- 原克昭「弘前より立教日文へ送る手紙」、『立教大学日文ニュース』第22号、pp.6-8、単著、2019年3月、立教大学日本文学会

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 原克昭「隠岐の島で小野篁をさがす——配流島嶼における奇才文人伝説のゆくへ——」、日本文学史研究会・第3次さんごの会例会、単独、立教大学、2018年5月27日
- 原克昭「神話注釈・神社研究の中の〈八幡〉——吉田神道家の言説を手懸りとして——」、名古屋大学・西欧の日本学研究者とのネットワークを通じた日本人若手研究者の国際化—絵写本・版本研究を中心として「八幡縁起、その流伝と変容—絵巻・神話・地域社会」、単独、フランス(パリ)INALCO大学、2018年7月10日
- 原克昭「東奥義塾高校図書館蔵日本思想史関係資料について——《暦書・占書》の世界——」、2018年度旧弘前藩藩校稽古

館資料調査報告会、単独、弘前大学、2018年12月16日

[講演]

- 原克昭「日本神話の多様性——神話注釈の変容と再生——」、清華大学『日本書紀』読書班、単独、中国（北京）清華大学、2018年11月6日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- フランス・パリ、名古屋大学・頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによる国際ワークショップ／西欧の日本学研究者とのネットワークを通じた日本人若手研究者の国際化—絵写本・版本研究を中心として、2018年7月7日～15日
- 中国・北京、説話文学会55周年記念・特別大会、2018年11月2日～7日

尾崎名津子

(1)現在の研究テーマ

- 日本近現代文学、出版メディア、検閲研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 尾崎名津子「〈大阪人〉の視差—直木三十五「五代友厚」をめぐる—」日本近代文学会関西支部編集委員会編『〈異〉なる関西』pp.38-65、共著、2018年11月、田畑書店
- 尾崎名津子「津田事件の文脈—内務省検閲と岩波書店—」『人文社会科学論叢』第6号、pp.311-326、単著、2019年2月
- 尾崎名津子「岡田禎子—戯曲を「書かない」劇作家—今井久代・中野貴文・和田博文編『女学生とジェンダー』pp.346-358、共著、2019年3月、笠間書院
- 尾崎名津子「『故郷』とのあそび—青森と日本近現代文学—弘前大学人文社会科学部編・羽瀨一代責任編集『大学の青森ガイド』pp.153-165、共著、2019年3月、昭和堂
- 尾崎名津子「木村友祐「イサの氾濫」の改稿—フラットな破局の後を生きる生—」『日本文学研究ジャーナル』第9号、pp.111-124、単著、2019年3月

[その他、研究ノート]

- 尾崎名津子「岩波文庫に対する検閲を通して見る、様々な検閲の主体」『「内務省委託本」調査レポート』第18号、pp.1-8、単著、2019年1月、千代田区立千代田図書館

[その他、資料解題]

- 尾崎名津子「二十二史言行略」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第1号、pp.148-154、単著、2019年2月
- 尾崎名津子「格物探原」『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第1号、pp.155-163、単著、2019年2月
- 尾崎名津子「(絵入) 智慧の環」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第5号、pp.171-176、単著、2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 尾崎名津子「小説を見る眼—保高德蔵と青野季吉」『文藝首都』国際会議、単独、慶應義塾大学、2018年7月22日
- 尾崎名津子「開高健のベトナム関連テキストにおける〈傍観〉の射程」2018年度日本近代文学会秋季大会、単独、岩手県立大学、2018年10月28日
- 尾崎名津子「出版社鎌倉文庫の事業と検閲」第16回内務省委託本研究会、単独、千代田区立千代田図書館、2019年3月8日

[調査報告]

- 尾崎名津子「古川正雄『絵入智慧の環』について」2018年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2018年12月6日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾（台湾大学、国立台湾図書館、国家図書館、成功大学）、研究会・史料調査、2018年9月
- アメリカ（メリーランド大学、アメリカ議会図書館）、史料調査、2019年2月～3月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「岩波書店における検閲と文学の総合的研究」（研究分担者）2016～2018年度
- 公益財団法人日本台湾交流協会共同研究助成事業「戦前期の日本・台湾における「検閲」の比較研究」（研究分担者）2018年度
- 若手研究「占領期（1945-1949）の単行本検閲の実態—出版社鎌倉文庫を起点として」（研究代表者）2018～2020年度

畑 中 杏 美

(1)現在の研究テーマ

- イギリス小説、イギリス小説における老いとユーモア

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 畑中杏美『『新しい時代』の老齡? : 18世紀イギリス小説における老齡についての一考察』『山梨国際研究』第14号、pp. 75-84、単著、2019年3月

[その他、研究ノート]

- 畑中杏美「英語圏への短期研修の効果測定：オンラインプログラムを利用して」『Ferris Research Papers』第9号、pp.45-68、単著、2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 畑中杏美「19世紀小説における〈老い〉の表現：シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』を中心に」日本プロンテ協会2018年大会、単独、中京学院大学、2018年10月13日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 英国（ロンドン）、資料調査、2018年9月3日～11日
- ニュージーランド（クライストチャーチ）、海外研修引率、2018年9月13日～16日
- 英国（ロンドン）、資料調査、2019年2月15日～22日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究「20世紀イギリス小説における老いと笑いの表象」(研究代表者) 2018～2021年度
- 山梨県若手研究者奨励事業「英語圏への短期研修の効果測定：オンラインプログラムを利用して」(研究代表者) 2018年度

コミュニケーション講座

山 本 秀 樹

(1)現在の研究テーマ

- 地理情報システム（GIS）による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 山本秀樹『地理情報システムによる世界諸言語の比較表現の言語類型地理論的研究』、単著、2019年3月、エイム

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「地理情報システムによるデジタル世界諸言語の比較表現の言語類型地理論的研究」(研究代表者) 2016～2018年度

木 村 宣 美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学（統語論・意味論）：
右方移動現象と併合/線形化のメカニズム；述語（動詞句）削除に対する2種類のbeに基づく分析；文体的倒置/there構文/as挿入節/比較節の節構造

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「BEの語彙的特性に基づく動詞句削除分析」Ars Linguistica 第25号（日本中部言語学会）、pp.34-53、単著、2018年12月25日

(4)学外集中講義など

- 平成30年度免許状更新講習「英文誤用分析と英文文演習」弘前大学 2018年7月28日
- 全学教職入門（引率教員による学校訪問事前指導・訪問校ごとの討論/発表と全体討論）弘前大学 2018年9月13日・9月21日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- The 20th Seoul International Conference on Generative Grammar (SICOGG 20), Konkuk University, Seoul, Korea, August 8-10, 2018 (2018年8月7日-10日)
- The 43rd Annual Penn Linguistics Conference (PLC 43), University of Pennsylvania, Philadelphia, PA, USA, March 22-24, 2019 (2019年3月22日-26日)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「複数の助動詞が生じる右方移動構文の内部構造と派生メカニズムの解明」(研究代表者) 2017-2019年度

渡辺 麻里子

(1)現在の研究テーマ

- 中世文学・説話文学・仏教文学、書誌学、天台談義書、大蔵経(明版・鉄眼版)、津軽の宗教と文化、藩校資料・大名文庫

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 渡辺麻里子「恵心流学僧実兼とその著作『宗要直兼集』について」『興風』第30号、pp.483-505、単著、査読無、2018年12月
- 渡辺麻里子「深浦円覚寺所蔵古典籍の概要」、『深浦円覚寺古典籍保存調査報告書』第一集、pp.11-42、査読無、〔弘前大学人文社会科学部・弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター〕深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト、2019年3月

[その他]

- 渡辺麻里子〔解題〕「明訓一斑抄」「遵行録」「松葉名所和歌集」、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第五集、弘前大学人文社会科学部、2019年3月、pp.201~209、210~215、206~223頁
- 渡辺麻里子〔解題〕「大師御行状集記」「一行禪師 字母表」「三蔵法師袈裟図」「東寺長者 拜堂記」「修験道峯中火堂書「如意輪念 誦次第(甲)」「如意輪念誦次第(乙)・結願作法・初加行作法・十八道加行作法」「妙見大菩薩法・新鳥居加持作法」「奎章全録」「忠烈実録」、『深浦円覚寺古典籍保存調査報告書』第一集、〔弘前大学人文社会科学部・弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター〕深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト、2019年3月、pp.43-64、84-97、98-106、115-120、121-123、124-130、131-134、164-167、168-177、査読無
- 渡辺麻里子「弘前の寺社をめぐる——最勝院と報恩寺・袋宮寺をあるく——」、『大学の青森ガイド——こだわりの歩き方——』pp.19-33、全258頁、昭和堂、査読無

[報告書]

- 渡辺麻里子、植木久行、荷見守義、武井紀子、川瀬卓也『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録第五集』、共著、2019年3月、弘前大学人文社会科学部・弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム
- 渡辺麻里子『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書第一集』、監修、2019年3月、深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 渡辺麻里子「深浦円覚寺所蔵古典籍資料からわかること——町民参加型の文献資料調査を通じて——」、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス平成30年度第1回公開講座・2018年度深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会、(於)深浦町役場1階町民文化ホール、2018年7月6日
- 渡辺麻里子「深浦円覚寺(真言宗醍醐派)における聖教調査——町民参加型「青森モデル」について——」、第2回日本宗教学文献資料学合同研究集会、(於)名古屋大学、2018年10月7日
- 渡辺麻里子「城下町弘前を歩く——津軽関係資料とその活用——」、第4回日本語の歴史的典籍国際研究集会、(於)国文学研究資料館大会議室、2018年7月27日
- 渡辺麻里子「中国仏教と説話文学」、説話文学会五十五周年記念北京特別大会、(於)中国人民大学、2018年11月3日
- 渡辺麻里子「中世における三井寺の談義について」、平成三十年度第六十回天台宗教学学会、2018年11月10日、(於)叡山学院
- 渡辺麻里子「深浦円覚寺(真言宗醍醐派)所蔵聖教について——醍醐寺関係書籍・修験道関係書籍を中心に——」、日本仏教総合研究学会第17回大会、(於)駒沢大学、2018年12月9日
- 渡辺麻里子「東奥義塾高校図書館所蔵「奥文庫」関係資料について——」、2018年度旧弘前藩校稽古館資料調査報告会、2018年12月16日、(於)弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール

[講演]

- 渡辺麻里子「天台談義所に集まった身延の学僧たち一日蓮宗の学僧は、天台談義所から何を学んだのか」、天台宗茨城教区研修会講義(1)、(於)天台宗茨城教区宗務所、2018年5月25日

- 渡辺麻里子「名僧「了翁禪師」を知る—今なぜ了翁禪師なのか—」、天台宗茨城教区研修会講義(2)、(於)天台宗茨城教区宗務所、2018年5月25日
 - 渡辺麻里子「日本における嘉興蔵とその展開—嘉興蔵と鉄眼版一切経—」、第2回「近世東亜仏教文献と研究」国際学術検討会議、(於)仏光大学(台湾)、2018年6月2日
 - 渡辺麻里子「お殿様の教養—弘前藩主の和歌をめぐって—」、「津軽ひろさき検定」開催10周年企画・歴史的典籍NW事業・文献観光資源学・津軽デジタル風土記プロジェクト出前講座、(於)弘前市観光館多目的ホール、2018年6月23日
 - 渡辺麻里子「弘前の仏教を探るまちあるき」、津軽まちあるき博覧会&津軽デジタル風土記、(於)最勝院・報恩寺、2018年10月20日
 - 渡辺麻里子「盛雲院平曲の会解説(先帝身投・能登殿最期)、盛雲院平曲の会、(於)盛雲院、2018年10月21日
- (4)学外集中講義など
- 渡辺麻里子「東奥義塾高校図書館所蔵古典籍を見てみよう！触ってみよう！——弘前藩藩校「稽古館」とお殿様の本「奥文庫」について——」、弘前大学人文社会科学部・藩校資料調査プロジェクト特別講義、2018年5月22日3限、東奥義塾高校1年4組
 - 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔三大小学校・三大学区生涯学習講座・特別公開授業〕、(於)弘前市立三大小学校、6年1組2校時、2組3校時、2018年7月12日
 - 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔文京小学校・文京学区ふれあい講座・特別公開授業〕、(於)弘前市立文京小学校、2018年7月13日、6年1組・2組合同
 - 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」、〔大成小学校・大成学区まなびい講座・特別公開授業〕(於)弘前市立大成小学校 多目的ホール(6年1組・2組合同)、2018年7月13日
 - 渡辺麻里子「東奥義塾高校図書館所蔵古典籍を見てみよう！触ってみよう！——弘前藩藩校「稽古館」とお殿様の本「奥文庫」について——」、弘前大学人文社会科学部・藩校資料調査プロジェクト特別講義、(於)東奥義塾高校図書館、2018年8月3日
 - 渡辺麻里子「昔話やくずし字を通じた日本古典文学の学習——昔話編／くずし字編——」、平成30年度弘前大学教員免許状更新講習、(於)弘前大学、2018年8月11日
 - 渡辺麻里子「くずし字の教え方——実践例とともに—」、「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムによるくずし字セミナー」、(於)名古屋大学、2018年8月18日
 - 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔第三中学校・特別公開授業〕、(於)弘前市立第三中学校、1年1組～4組、2018年12月6日・7日
 - 渡辺麻里子「『法華経』の談義と物語」、富山市八尾町長松山本仏教寺蔵「法華経曼荼羅図」原寸大複製全幅展示および研究会、(於)東京芸術大学陳列館、2018年12月25日
- (5)海外出張・研修、その他の海外での活動など
- 2018年6月1日～5日中国(台湾・佛光大学)
- (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など
- 基盤研究(C)「園城寺所蔵天台関係聖教の調査による中世天台談義書を生成するネットワークの解明」(研究代表者)2018～2021年度
 - 基盤研究(B)「近世に於いて文庫を創設・形成した大名に関する総合的研究」(研究分担者)2018～2022年度
 - 基盤研究(C)「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集積の解明」(研究分担者)2018～2021年度
 - 基盤研究(A)「宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の調査と研究」(研究分担者)2014～2018年度
 - 青森学術文化振興財団助成金「深浦町における歴史文化資源調査とその活用による地域振興事業」(代表者)2018年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 国際共同研究「投企する古典性—視覚／大衆／現代」(研究分担者)、国際日本文化研究センター、2016～2019年度
 - 学内共同研究「深浦における歴史文化資源調査とその活用による地域振興」(研究代表者)、深浦町役場、2017年度
 - 国際共同研究「文献刊行資源学としての「津軽デジタル風土記」の開発と研究」(研究分担者)、人間文化機構・国文学研究資料館、2017～2019年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 「特別講演会「日本におけるグローバリゼーションとフェミニズム」(ボルドーモンテニュー大学 クリスチヌ・レヴィ先生)2018年4月27日(於)弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール
 - 「弘前大学人文学部 国際公開講座2018「日本を知り、世界を知る」海をこえて世界とつながる人文学」2018年11月3日(文化の日)、(於)弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール

- 「2018年度東奥義塾高校所蔵 旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会」2018年12月16日（日）、（於）弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール
- 「2018年度・卒研プロジェクト」卒研を書くために！—卒業研究発表会&卒研指導勉強会—」2019年2月6日（水）、（於）弘前大学総合教育棟306

奈 蔵 正 之

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 奈蔵正之「カミュ『異邦人』の誕生」『人文社会科学論叢』第6号、pp.81-196、単著、2019年2月28日
- 奈蔵正之「『幸福な死』への挑戦 —カミュ最初の小説執筆の経緯と意義— [下]」『人文社会科学論叢』第5号、pp.35-128、単著、2018年8月31日

熊 野 真 規 子

(1)現在の研究テーマ

- 外国語教育（フランス語教育、複言語・複文化教育、サービス・ラーニング）
- 学びのコミュニティづくりと地域活性化、地域の成長戦略と複合的教育ツーリズム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊野真規子「学生の主体性を考える—「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特事例から—」『RENCONTRES』第32号、pp.55-59、単著、2018年7月7日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊野真規子「プロジェクト学習の道具箱をどのように更新するか—「弘前×フランス」プロジェクトのリノベーションに向けて Comment réactualiser les techniques de classe de PBL (Project Based Learning) —Pour la rénovation du projet “Hirosaki × France”」Rencontres Pédagogiques du Kansai 2019（第33回関西フランス語教育研究会）、単独、2019年3月25日～2019年3月26日

[討論]

- 熊野真規子「『弘前×フランス』—外国語教育×フィールドワークの可能性」クロージング企画:企画展ガイドツアー&ディスカッション」弘前大学資料館第18回企画展、単独、2018年4月28日

(4)学外集中講義など

- 「『むつ×フランス』: 非日常のまなざしで地域を読む」平成30年度むつサテライトキャンパス外国文化講座、単独、2018年8月24日

小 野 寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小野寺進「How to Practice Extensive Reading in the College Classroom」『Journal of Extensive Reading (2018: Extensive Reading World Congress Proceedings)』pp.139-144、単著、2018年10月1日、JALT Publications

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小野寺進「高等教育機関での多読授業の評価方法について」日本多読学会2018年会、単独、東京工業高等専門学校、2018年8月5日
- 小野寺進「アクセルはベアトリスのもとに行くだろうか？—『忘れられた巨人』と語り」日本英文学会東北支部第73回大会、単独、2018年12月1日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「授業における英語多読プログラム開発とその評価に関する研究」(研究代表者) 2016～2018年度

南 修 平

(1)現在の研究テーマ

- アメリカ現代史、ニューヨークの歴史と文化、労働民衆史、アメリカ愛国主義研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 南修平「アメリカ労働史から捉えた「白人労働者」―「トランプ現象」を読み解くカギとして」『大原社会問題研究所雑誌』第725号、pp.38-52、単著、2019年3月
- 南修平「生活世界を捉えるということ―ニューヨーク港湾地区に生きる労働者とその日常」『歴史学研究』第976号、pp.112-122、単著、2018年10月

[その他]

- 南修平「望戸愛果『戦争体験』とジェンダー―アメリカ在郷軍人会の第一次世界大戦戦場巡礼を読み解く」『西洋史学』第255号、pp.79-81、単著、2018年6月
- 南修平「2017年の歴史学界―回顧と展望―北アメリカ・後半」『史学雑誌』第127巻第5号、pp.398-403、単著、2018年5月
- 中村寛、南修平「<周縁>の「小さなアメリカ」―第7回白人労働者たちの愛国―南修平との対話―」『世界』（岩波書店）第910号、pp.268-277、共著、2018年7月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 南修平「生活世界を捉えるということ―ニューヨーク港湾地区に生きる労働者とその日常」2018年度歴史学研究会大会・近代史部会「生活のなかの労働と社会関係」、単独、早稲田大学早稲田キャンパス、2018年5月27日

(4)学外集中講義など

- 2018年度ひろだいなビゲ→ト・キャラバン in 函館 模擬講義「ニューヨークを知る、アメリカを知る」函館コミュニティプラザGスクエア、2018年5月12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 人文社会科学部学部専門科目「トラベルスタディーズA」(テネシー州マーティン市など)、2018年9月1日～9月16日
- ニューヨーク市/ニュージャージー州ホーボーケン市(コロンビア大学、ホーボーケン歴史史料館)での史料調査、2019年3月25日～31日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「第2次世界大戦後のニューヨーク港湾地区の衰退と都市秩序に関する史的考察」(研究代表者)2017～2020年度
- 平成30年度弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム「アメリカ/フランスでの研修によるグローバルマインド及び地域活性化意識育成事業」(代表者)2018年9月

堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、奴隷制文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 堀智弘「蘇生のおぞましきドラマー「ベレニス」、「モレラ」、「ライジーア」におけるポーの化学的創作手法」『英文学研究 支部統合号』第11巻、pp.63-70、単著、2019年1月20日

[その他]

- 堀智弘「フレデリック・ダグラス著『私の隷属と私の自由』(一八五五年)」『人文社会科学論叢』第6号、pp.289-298、単著、2019年2月28日
- 堀智弘「理性主義と自己信頼―十九世紀アメリカの理神論的文化におけるフレデリック・ダグラス」『黒人研究』第88号、pp.12-15、単著、2019年3月31日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 堀智弘「理性主義と自己信頼―十九世紀アメリカの理神論的文化におけるフレデリック・ダグラス」、黒人研究学会第64回年次大会、単独、東洋大学白山キャンパス、2018年6月23日

[講演]

- 堀智弘「英語で自己紹介ことはじめ」、地域未来創生塾、単独、弘前市中央公民館、2019年1月9日

[通訳・解説]

- アラスティア・バトラー「英語文法を探求する」、弘前大学人文社会科学部国際公開講座2018、共同、弘前大学人文社会科学部、2018年11月3日

(4)学外集中講義など

- ひろだいナビゲートキャラバン in 弘前南高校「奴隷制とアメリカ文学」弘前南高校、2018年6月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「ジャクソニアン・デモクラシー期の米国社会の世俗化・市場化と物語形式の変容」(研究代表者) 2018～2020年度

JANSON MICHEL

(1)現在の研究テーマ

- フランス語・フランス語教育学

(4)学外集中講義など

- ①平成30年7月30日～平成30年8月3日
集中講義 実践フランス語会話Ⅰ 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部
- ②平成31年2月11日～平成31年2月15日
集中講義 実践フランス語会話Ⅱ 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ①平成30年9月8日～23日
トラベルスタディーズ (B) フランス (ボルドー市) 引率教員
- ②平成31年3月26日～31日
トラベルスタディーズ (B) 事前調査 フランス (ボルドー市)

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 講演会 (共同)

① (平成30年4月27日)

日本におけるグローバリゼーションとフェミニズム：歴史的な観点からジェンダー研究の日仏比較
講師：ボルドーモンテニュー大学クリスチヌ・レヴィ・准教授

- 講演会 (共同)

② (平成30年10月24日)

弘前大学人文社会科学部 国際化フォーラム2018
プロセス・時間・空間 ～ 地中海鉄器時代における生産様式
講師：アレクシス・ゴルグ氏 ボルドーモンテニュー大学・准教授

楊 天 曦

国際社会講座

齋 藤 義 彦

(1)現在の研究テーマ

- 現代ドイツ、ヨーロッパ文化

(2)著書、論文、その他

[その他、翻訳]

- 齋藤義彦「連邦首相アンゲラ・メルケル博士によるドイツ連邦議会での政府説明演説2018年3月21日ベルリン (前半)」『人文社会科学論叢』第5号、pp.255-264、単著、2018年8月31日
- 齋藤義彦「連邦首相アンゲラ・メルケル博士によるドイツ連邦議会での政府説明演説2018年3月21日ベルリン (後半)」『人文社会科学論叢』第6号、pp.277-285、単著、2019年2月28日

城 本 る み

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「台湾の先行事例に基づくハンセン病療養所の転用可能性に関する実証研究」(研究代表者) 2016～2019年度

荷 見 守 義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史・東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義「曹董と于応昌—明代万暦初期の監察事例から—」『人文研紀要』第91号、pp.201-234、単著、2018年9月30日
- 荷見守義「監軍陳效と「万暦朝鮮の役」～監察領域を中心に～」『人文社会科学論叢』第6号、pp.310～299、単著、2019年2月28日

[その他]

- 王雅潔(荷見守義訳)「劉基長子劉璉の死因試探」『人文社会科学論叢』第5号、pp.139-144、単著、2018年8月31日
- 南炳文(荷見守義訳)「洪武三年、劉基の丞相候補者に関する評論浅論」『人文社会科学論叢』第5号、pp.129-137、単著、2018年8月31日
- 荷見守義「工藤忠とその時代」弘前大学人文社会科学部編『大学的青森ガイド—こだわりの歩き方』昭和堂、pp.84-88、2019年3月31日
- 荷見守義「尺牘雙魚」『弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第五集、pp.131-133、単著、2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 荷見守義「朝鮮の役と督撫制度」国際シンポジウム「越境する東アジア：16世紀後半-17世紀前半を中心に」、単独、一橋大学、2018年12月21日～2018年12月22日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「弘前藩藩校「稽古館」旧蔵本の悉皆調査による近世津軽における知識集積の解明」(研究分担者) 2018～2021年度

(8)学会・研修会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 2018年度東北史学会・弘前大学國史研究会合同大会 2018年10月6, 7日

林 明

(1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

(2)著書、論文、その他

[その他、フィールドワーク]

- 林明「別府の日本山妙法寺における酒迎天信上人の活動」、2018年4月
- 林明「日本におけるガンディーの糸車の実践活動」、2018年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Akira HAYASHI, "Mahatma Gandhi for Students", Gandhian Forum for Ethical Corporate Governance, single, Hotel Villa Fontaine, Nihombashi, May 27, 2018.
- 林明「インダス文明と文字情報」、「デジタル言語学」研究会、単独、東京都、2018年8月12日

澤 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 澤田真一「マオリと反核の思想 ティカンガ、神話、文学から」『日本ニュージーランド学会誌』第25巻、pp.2-13、単著、2018年8月20日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 澤田真一「日本におけるニュージーランド研究：過去、現在、未来 文学の立場から」日本ニュージーランド学会第25回研究大会、単独、早稲田大学、2018年6月16日

FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識、ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

BUTLER ALASTAIR JAMES

(1)現在の研究テーマ

- コーパス言語学、プログラミング言語、応用言語学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 竹内孔一、バトラーアラステア、長崎郁、ホーンステイーブンライト「PropBankスタイルの意味役割タグを導入した述語項構造シソーラスとNPCMJへの付与計画」『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp.136-138、共著、2019年3月13日
- ホーン・ステイーブン・ライト、鴻野知暁、バトラー・アラステア、小木曾智信、フレレスビグ・ビャーケ「『オックスフォード・NINJAL 上代コーパス』の公開」『日本語学会2018年秋季大会』単著、2018年10月14日
- Stephen Wright Horn, Alastair Butler「English/Japanese contrastive study based on normalisation, a step in the semantic processing」『日本英語学会第36回大会シンポジウム「ツリーバンク開発と言語理論」』共著、2018年11月25日
- BUTLER ALASTAIR JAMES「A unified interface for exploring English and Japanese」『日本英語学会第36回大会シンポジウム「ツリーバンク開発と言語理論」』単著、2018年11月25日
- BUTLER ALASTAIR JAMES「Parsed Annotation with Semantic Calculation」『Proceedings of the 17th International Workshop on Treebanks and Linguistic Theories (TLT 2018), December 13-14, 2018, Oslo University, Norway』第155巻、pp.39-51、共著、2018年12月10日
- BUTLER ALASTAIR JAMES「Annotating Syntax and Lexical Semantics With (out) Indexing」『New Frontiers in Artificial Intelligence. JSAI-isAI 2017. Lecture Notes in Computer Science』第10838巻、pp.299-313、共著、2018年6月30日
- BUTLER ALASTAIR JAMES「Derived mappings for FrameNet construction from a parsed corpus of Japanese」『LREC 2018 Proceedings, International FrameNet Workshop, 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference』pp.28-32、共著、2018年5月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Alastair Butler, Stephen Wright Horn「Parsed annotation with semantic calculation」The 17th International Workshop on Treebanks and Linguistic Theory, University of Oslo, 共同、2018年12月13日～2018年12月14日
- Alastair Butler, Iku Nakasaki, Susanne Miyata「Changing the morphological base of the NPCMJ」『統語・意味解析コーパスの開発と言語研究』2018年度第2回研究発表会、共同、国立国語研究所、2019年1月27日
- Alastair Butler「A unified interface for exploring English and Japanese」日本英語学会第36回大会シンポジウム「ツリーバンク開発と言語理論」、単独、横浜国立大学、2018年11月25日
- 竹内孔一、バトラーアラステア、長崎郁、ホーンステイーブンライト「PropBankスタイルの意味役割タグを導入した述語項構造シソーラスとNPCMJへの付与計画」言語処理学会第25回年次大会（NLP2019）、共同、名古屋大学、2019年3月13日
- Stephen Wright Horn, Alastair Butler, Iku Nagasaki, Kei Yoshimoto「Deriving mappings for FrameNet construction from a parsed corpus of Japanese」The Eleventh International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2018)、共同、Phoenix Seagaia Conference Center, Miyazaki、2018年5月7日～2018年5月12日
- Stephen Wright Horn, Alastair Butler「Tools and practices for annotating discourse」『統語・意味解析コーパスの開発と言語研究』プロジェクト共同研究発表会、共同、岡山大学、2018年8月2日

- 周振, アラスティア・バトラー, 吉本啓「中国語存現文の解析」言語学会第20回国際年次大会、共同、文京学院大学、2018年8月2日
 - ホーン・ステイーブン・ライト, 鴻野知暁, バトラー・アラスティア, 小木曾智信, フレスビッグ・ビヤーク「[「オックスフォード・NINJAL 上代コーパス」の公開] 日本語学会2018年秋季大会、共同、岐阜大学、2018年10月14日
 - Stephen Wright Horn, Alastair Butler「English/Japanese contrastive study based on normalisation, a step in the semantic processing」日本英語学会第36回大会シンポジウム「ツリーバンク開発と言語理論」、共同、横浜国立大学、2018年11月25日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 統辞・意味解析情報タグ付き日本語ツリーバンクからの視覚意味情報の抽出と応用、2015-04-01-2019-03-31
 - Developing a program for language teaching with parsed corpora、2019-04-01-2022-03-31
- (7)共同研究、受託研究など
- 国立国語研究所の共同研究プロジェクト『統辞・意味解析コーパスの開発と言語研究』

中 村 武 司

- (1)現在の研究テーマ
- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- 中村武司「長い18世紀イギリスの海軍・議会・文化——ウェストミンスター選挙区を中心に」イギリス史研究会第44回例会、単独、専修大学、2018年6月23日
- [講演]
- 中村武司「近代のイギリス——議会・選挙・ジェンダー」神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会歴史分科会高大連携講座《近代ヨーロッパをどのように学ぶか》、単独、栄光学園高等学校、2018年8月6日
- (4)学外集中講義など
- 「ヨーロッパとは何か——歴史と理念」、放送大学青森学習センター、2018年4月21日・22日
 - 「西洋史」、ノースアジア大学経済学部、2019年3月5日～8日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- イギリス（ロンドン）、資料調査、2018年8月21日～9月8日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究（C）「近世・近代イギリス史像の再考と財政海軍国家論」（研究代表者）2017～2019年度

武 井 紀 子

- (1)現在の研究テーマ
- 古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究
- (2)著書、論文、その他
- [論文]
- 武井紀子「伊場木簡からみた地方財政」『木簡研究』第40号、pp.191-202、単著、2018年11月25日
- [その他]
- 武井紀子「群書類従」『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩典籍調査集録』第5巻、pp.134-165、単著、2019年3月31日
 - 武井紀子「文献史料からみた古代津軽」『古代史シンポジウム 古代津軽の様相を探る』pp.33-42、単著、2018年9月29日
 - 武井紀子「書評と紹介 小口雅史編『律令制と日本古代国家』」『法政史学』第91号、pp.110-113、単著、2019年3月20日
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- 武井紀子「古代日本における禁物規定と鉄 日唐関市令の比較を中心に」東北史学会・弘前大学国史研究会合同大会、単独、弘前大学、2018年10月7日
 - 武井紀子「伊場木簡からみた地方財政」木簡学会静岡特別研究集会、単独、静岡文化芸術大学講堂、2018年6月9日
- [講演]
- 武井紀子「文献史料からみた古代津軽」弘前市教育委員会 古代史シンポジウム 古代津軽の様相を探る、単独、ヒロロ4階市民文化交流館ホール、2018年9月29日

- 武井紀子「博物館歴史講座 元慶の乱と古代津軽」弘前市立博物館、単独、2018年11月25日
- [調査報告]
- 武井紀子「東奥義塾高校図書館所蔵資料の保存木箱について」二〇一八年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール、2018年12月16日
- (4)学外集中講義など
- むつサテライトキャンパス「エミシ、北へ南へ—むつの古代・中世の歴史を紐解く—」むつ下北観光物産館、2018年10月25日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- 中国山西省、科学研究費補助金・基盤B「日本古代国家における中国文明の受容とその展開—律令制を中心に—」(研究代表者：大津透)にかかる調査、2018年8月31日～2018年9月6日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 若手研究 (B)「東アジアの視点からみた律令財政の構造的な研究」(研究代表者) 2018～2021年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 東京大学史料編纂所 共同研究課題「平安時代基本典籍・記録類の史料学的再検討」(代表：山口英男)、共同研究員、2018年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト「二〇一八年度 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会」、弘前大学、2018年12月16日
- [それ以外のもの]
- 2018年度東北史学会・弘前大学国史研究会合同大会、弘前大学、2018年10月6・7日

亀谷 学

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 亀谷学「タヌーヒー『イスラム帝国夜話』上下巻(森本公誠訳) 岩波書店 2016 2017 年 上巻 541 頁、下巻 601 頁」『イスラム世界研究』第12号、pp.400-402、単著、2019年3月
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- 亀谷学「江戸後期貨幣図録の中のイスラーム貨幣」日本中東学会第34回年次大会、単独、上智大学四谷キャンパス、2018年5月12日～2018年5月13日
 - 亀谷学「アッバース朝期におけるカリフ観の変容」日本オリエント学会第60回大会、単独、京都大学吉田キャンパス、2018年10月13日～2018年10月14日
 - Manabu Kameya “Operating the Mint in the Medieval Middle East: An Analysis Based on a Persian Accounting Manual” The International Symposium and Workshop on Money and its Circulation in the Pre-Modern Western Eurasian World in 2018、単独、2018年9月2日～2018年9月7日
 - Manabu Kameya “Use of Silver Coins in the First Centuries of Islamic Egypt: An Analysis based on Arabic Papyrus Documents” World Congress for Middle Eastern Studies. Seville 2018、単独、2018年7月16日～2018年7月22日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (C)「ファーティマ朝カリフ概念の研究によるカリフ史の再構築」(研究代表者) 2018～2020年度

情報行動講座

佐藤 和之

(1)現在の研究テーマ

- 地域社会の言語変容研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 横山詔一、杉戸清樹、佐藤和之、米田正人、前田忠彦、阿部貴人「社会言語科学の源流を追う」、共著、2018年9月18日、ひつじ書房

[論文]

- 佐藤和之「社会構成員の複雑化とその表象表現を科学にする言語研究の系譜」『國學院雑誌』第119巻、第11号、pp.193-204、単著、2018年11月
- 佐藤和之「災害発生時の「やさしい日本語」と訪日外国人への避難誘導～訪日外国人4000万人時代に向けた「やさしい日本語」の応急対応と安全を考える」『危機管理レビュー』第10号、pp.49-61、単著、2019年3月
- 佐藤和之「「社会」を識別指標にする言語学～「やさしい日本語」と鶴岡調査のウェルフェアを考える～」『シリーズ社会言語科学』第2巻、pp.67-89、単著、2018年9月18日

[その他]

- 佐藤和之「方言の形成」『日本語学大辞典』単著、2018年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 佐藤和之「消防行政への外国人住民のための「やさしい日本語」適用を考える」全国市町村国際文化研修所消防職員研修、単独、会場、2018年5月30日
- 佐藤和之「山形方言の過去と未来～方言のゆくえ～」『山形学』フォーラム、単独、2018年6月30日
- 佐藤和之「「やさしい日本語」カテゴリー～生活情報を伝えるための「やさしい日本語」研修～」公益財団法人大阪府国際交流財団、単独、大阪・マイドームおおさか、2018年9月14日
- 佐藤和之「やさしい日本語」演習：外国人住民の言語権と「やさしい日本語」いわて災害時外国人支援態勢構築事業、単独、2018年9月7日
- 佐藤和之「「やさしい日本語」概説：外国人住民の言語権と「やさしい日本語」いわて災害時外国人支援態勢構築事業、単独、2018年8月24日

曾 我 亨

(1)現在の研究テーマ

- 東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争
- 東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動
- 人類の進化史的基盤に関する研究

(2)著書、論文、その他

[その他]

- フィールドワーク「アフリカ牧畜社会における民族紛争への文化進化論的接近に関するフィールドワーク」、2018年8月～2018年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 曾我亨、小寺将太「地方都市における共育型インターンシップの可能性」日本インターンシップ学会東日本支部研究会、共同、青森中央学院大学、2018年12月1日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「アフリカ牧畜社会における民族紛争への文化進化論的接近」(研究代表者)2018～2022年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「「社会性の起原：ホミニゼーションをめぐって」プロジェクト研究会」2018～2019年度
- 一般受託研究「県内企業の採用力向上プログラム開発業務」(代表者)2018年9月～2019年3月

大 橋 忠 宏

(1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 大橋忠宏、「弘前の公共交通」、羽渕一代(編)『大学的青森ガイド：こだわりの歩き方』、pp.16-17

羽 淵 一 代

(1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟
- 若者の性行動と恋愛

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 弘前大学人文社会科学部編 羽淵一代責任編集『大学的青森ガイド』共著、2019年3月、昭和堂

[その他]

- 「都市青年文化の経時的実証研究」
- 「大腸マッサージ最高！」太田至・曾我亨編『遊牧の思想—人類学がみる激動のアフリカ』142-143. 昭和堂

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Tomohiko ASANO, Ichiyo HABUCHI, Youth and Nationalism in a Globalized World 「RC34 Sociology of Youth」XIX ISA World Congress of Sociology、共同、2018年7月15日～2018年7月21日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(研究代表者)、2018～2021年度

(7)共同研究、受託研究など

- マツダ財団助成研究「青森20-30代住民意識調査」2018年

増 山 篤

(1)現在の研究テーマ

- 地理的な近接性(アクセシビリティ)に関する理論的・実証的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 増山篤、曾我亨、日比野愛子、古村健太郎、花田真一「地域レジリエンスを高めるための移動環境のあり方に関する調査・研究」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.39-44、共著、2019年2月
- 増山篤「空間的相互作用モデルとの矛盾およびパラメータ推定の実行に伴う問題を解消する時空間アクセシビリティ指標」『都市計画論文集』第53巻、第3号、pp.1427-1434、単著、2018年10月25日
- 増山篤「フリーのソフトウェア、サービス、データを用いた地方における公共交通アクセシビリティ評価? 青森県弘前市の循環バス路線を題材としたケーススタディ」『都市計画論文集』第53巻、第1号、pp.97-107、単著、2018年4月25日

[その他]

- 増山篤「地域レジリエンスを高めるための移動環境のあり方に関する調査・研究」(代表者) 2018年6月～2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 増山篤「パラメータ推定の実行に伴う問題を解消するログサム型時空間アクセシビリティ指標の定式化と応用」2018年日本地理学会秋季学術大会、単独、2018年9月22日～2018年9月25日

内 海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 内海淳「On the Directionality of Text in the Voynich Manuscript」『2人文社会科学論叢』第6号、pp.197-205、単著、2019年2月28日

日比野 愛子

(1)現在の研究テーマ

- 集団における人工物の役割
- 新興テクノロジーの社会的受容
- ゲーミングを活用したコミュニケーションデザイン

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 日比野愛子「感染症シミュレーションにみるモデルの生態学」(山口富子・福島真人編『予測がつくる社会：「科学の言葉」の使われ方』分担執筆第5章)、pp.113-138、単著、2019年2月22日、東京大学出版会

[その他]

- 日比野愛子「(特集の趣旨) 異分野×グループ・ダイナミックスのインタフェイス」『実験社会心理学研究』第58巻、第2号、pp.79-81、単著、2019年2月
- 日比野愛子「(書評) 福島真人『真理の工場』」『科学技術社会論研究』第16号、pp.216-220、単著、2018年12月10日
- 日比野愛子「(コラム) 発明王国青森」(弘前大学人文社会科学部編『大学の青森ガイド』)、pp.254-255、単著、2019年3月30日、昭和堂

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 日比野愛子「工場生産の現場にみる身体—機械インタラクション」テクノロジー利用に伴う身体技法に関する学際的研究第6回研究会(国立民族学博物館)、単独、2018年4月7日
- Aiko Hibino「Race against the Machine: Machine and AI in Japan」Experimental Psychology Seminar (Tartu University, Estonia)、単独、2018年9月24日
- Aiko Hibino「Boosting Creativity by AI and machines」Lunch-Talk (Technical University of Munich, German)、単独、2018年10月15日
- 日比野愛子「感染症シミュレーションにみるモデルの生態学」日本リスク研究学会第31回年次大会(コラッセ福島)、単独、2018年11月11日

(4)学外集中講義など

- 放送大学面接授業「社会の中で萌芽する科学技術」、2018年10月20日・21日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ドイツ、ミュンヘン工科大学技術社会研究センター客員研究員、2018年8月24日～10月16日

(7)共同研究、受託研究など

- 科学技術振興機構未来社会創造事業「三次元組織工学による次世代食肉生産技術の創出」(研究分担者)2018～2019年度
- 社会技術研究開発センター(RISTEX)戦略的創造研究推進事業「先端生命科学を促進する先駆的ELSIアプローチ」(研究分担者)2016～2019年度

花 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- 衰退産業における財の多様性、エネルギー経済学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 花田真一「東日本大震災後の再生可能エネルギー政策と今後の課題」『日本経済政策学会叢書1 アベノミクスの成否』pp.204-224、単著、2019年1月25日
- 花田真一、大橋弘、進士誉夫、渡部洋介、須澤健太郎「分散型電源大量導入時における地域冷暖房システムを利用した余剰電力対応の経済評価」『経済政策ジャーナル』第13巻、第1・2号、pp.85-88、共著、2018年5月

[報告]

- 青森県再生可能エネルギー活用促進協議会「自治体新電力が成立する最小規模を探る調査研究」平成30年度地域エネルギー事業形成促進支援事業成果報告書、1-80頁、共著、2019年3月

[その他]

- 花田真一「ねぶた祭りはいつまで見るべきか」『大学的青森ガイド こだわりの歩き方』単著、2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 青森県再生可能エネルギー活用促進協議会「自治体新電力が成立するための最小規模を探る調査研究」青森県のポテンシャルを活かした新エネルギー開発・事業家研究報告会（平成30年度青森県地域エネルギー事業研修講座）、分担者、2019年2月7日
- 花田真一「自治体アンケートの結果報告」、平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業鯉ヶ沢ワークショップ「自治体新電力の課題と展望」（青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・鯉ヶ沢町）、単独、鯉ヶ沢町役場、2019年1月16日
- 花田真一「政策間の相互作用が再生可能エネルギー普及に与えた影響」弘前大学経済学会第43回大会、単独、弘前大学、2018年10月19日
- 花田真一「電力自由化が住宅のエネルギー利用に与える影響の分析」規制と競争研究会 分科会、単独、ガスビル、2018年9月21日

(7)共同研究、受託研究など

- 平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業（青森県委託研究）「自治体新電力が成立する最低条件を探る研究」（青森県民エナジー株式会社、弘前大学人文社会科学部、鯉ヶ沢町）2018年7月～2019年3月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業「消費者フォーラム in HIROSAKI～消費者教育を多角的に考えよう～」(弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会、弘前大学、2019年1月26日)
- 平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業鯉ヶ沢ワークショップ（青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・鯉ヶ沢町）、鯉ヶ沢町役場、2019年1月16日

古村 健太郎

(1)現在の研究テーマ

- 恋人間暴力、恋愛関係の維持と精神的健康、アタッチメント理論から見た失恋経験

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 古村健太郎「地域の間人関係が担う“夢おこし”」『大学的青森ガイド こだわりの歩き方』pp.68-70, 分担執筆, 2019年3月30日, 昭和堂
- 古村健太郎「恋愛関係の維持」, 松井豊, 畑中美穂, 宇井美代子, 高橋尚也『対人関係を読み解く心理学 データ化が照らし出す社会現象』pp.79-92, 分担執筆, 2019年2月, サイエンス社

[論文]

- 高本真寛, 古村健太郎「大学生におけるアルバイト就労と精神的健康および修学との関連」, 『教育心理学研究』第66巻, pp.14-27, 共著, 2018年
- 西村多久磨, 古村健太郎, 鈴木雅之「知覚された高校受験勉強の機能 学業成績と抑うつ気分との関連」『心理学研究』第86巻, pp.500-506, 2018年12月

[その他]

- 古村健太郎「世界を旅慣れた人が見る「世界」とは」『日本社会心理学会 論文ニュース』単著, 2018年9月
- 杉山祐子, 日比野愛子, 曾我亨, 近藤史, 古村健太郎, 平井太郎, 諏訪淳一郎「地域の持続性に向けた共創手法の構築」『地域未来創生センタージャーナル』第5巻, pp.39-44, 2019年2月
- 増山篤, 曾我亨, 日比野愛子, 古村健太郎, 花田真一「地域レジリエンスを高めるための移動環境のあり方に関する調査・研究」『弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター』第5巻, pp.33-38, 2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 古村健太郎・山崎敬太「遠距離恋愛関係は不満足な関係か」日本パーソナリティ心理学会第27回大会, 共同, 立命館大学, 2018年8月
- 古村健太郎・戸田弘二・村上達也「恋愛関係崩壊後のアタッチメント・ネットワーク (2) 元恋人へのアタッチメント欲求の経時的変化」日本社会心理学会第59回大会, 共同, 追手門学院大学, 2018年8月
- 古村健太郎・梅村比丘・大久保圭介・工藤晋平・金政祐司「アタッチメント・スタイル以外に注目した成人のアタッチメン

- ト研究：アタッチメント対象やケアギビング」日本心理学会第82回大会，共同，仙台国際センター，2018年9月
- 古村健太郎・金政祐司・浅野良輔「夫婦関係と適応（4）間接的暴力は「暴力」として認知されるか？」日本心理学会第82回大会，共同，仙台国際センター，2018年9月
 - 浅野良輔・古村健太郎・金政祐司「夫婦関係と適応（5）——共有された関係効力性が幸福感に与える影響の因果関係——」日本心理学会第82回大会，共同，仙台国際センター，2018年9月
 - 澤邊潤・古村健太郎「自治体・地域・大学の協働による授業科目開発のプロセス（2）」日本教育心理学会第60回大会，共同，慶應義塾大学，2018年9月
 - 古村健太郎・戸田弘二・村上達也「恋愛関係崩壊後のアタッチメント・ネットワーク（1）」日本教育心理学会第60回大会，共同，慶應義塾大学，2018年9月

[講演]

- 筑波大学附属高等学校 心理学講習会 講師，2018年7月
 - 2018年度ヤングサイコロジストプログラム，2018年8月
 - 筑波大学附属高等学校 心理学講習会 講師，2019年2月
- (7)共同研究，受託研究など
- 平成27年度日工組社会安全財団（一般研究助成）「DV一次予防プログラムの深化に向けて；当事者因子から対人環境因子への視点の拡張」2018年4月～2019年9月

ビジネスマネジメント講座

保田宗良

(1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステムの展開

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 保田宗良「医療マーケティング戦略の変革についての考察」『消費経済研究』第7号、pp.87-98、単著、2018年6月30日
- 保田宗良「医療マーケティングと薬局イノベーションの史的考察及び今後の展望について」『人文社会科学論叢』第5号、pp.145-155、単著、2018年8月31日
- 保田宗良「医療サービスと薬局イノベーションの展開」『産業経済研究』第19号、pp.98-108、単著、2019年3月31日

[その他]

- 保田宗良「サービス・マーケティングとイノベーションについて的小論」『融合』第30号、pp.29-32、単著、2019年2月28日
- 保田宗良「高大連携による消費者教育推進の課題と展望」『弘前大学における消費者教育推進の取り組み』、pp.15-19、2019年3月29日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 保田宗良「医療サービスと薬局イノベーションの展開」日本産業経済学会研究例会、単独、北翔大学、2018年5月12日
- 保田宗良「医療マーケティングの変革と薬局イノベーションの展開」日本消費経済学会全国大会、単独、日本大学、2018年6月30日
- 保田宗良「患者満足度の向上と薬局イノベーションの考察」日本消費経済学会東日本大会、単独、弘前大学、2018年12月8日
- 保田宗良「患者満足度の質的向上を意図したイノベーションを包括した医療サービス」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、北星学園大学、2019年3月23日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「地域医療の質的向上を意図した医療マーケティングシステムの構築」（研究代表者）2017～2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会共催「消費者フォーラム in HIROSAKI」弘前大学人文社会科学部、2019年1月26日

[それ以外のもの]

- 日本消費経済学会東日本大会、弘前大学総合教育棟、2018年12月8日

加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際課税、法人税法、コーポレートガバナンスと会計

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 大澤弘幸・稲村健太郎・加藤恵吉・近藤康範他「New ベーシック税務会計〈個人課税編〉」pp.52-67、共著、2018年9月23日、五紘舎

[論文]

- Masatoshi Kosugi and Keikichi Kato「Considerations of the attempt to Strengthen Agricultural Competitiveness: A Case Study of the Collaboration between Agriculture and Welfare」『30TH ASIAN-PACIFIC CONFERENCE ON INTERNATIONAL ACCOUNTING ISSUES』pp.502-509、共著、2018年11月

[その他]

- 黄孝春、加藤恵吉、小杉雅俊、内藤周子「自然栽培法を起点とするマネジメント構築の試みと課題」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.29-32、共著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小杉雅俊、加藤恵吉「農作物の品質を高めるためのマネジメント・コントロール・システム農福連携をベースとした農業法人の事例研究」第77回 日本会計研究学会全国大会、共同、神奈川大学、2018年9月4日～2018年9月6日

森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 観光ビジネスと地域活性化

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男、他「平成30年度 弘大じょっぱり起業家塾 実施報告書」、共著、2019年3月、弘前大学
- 森樹男「平成29年度JR東日本寄附講義 実施報告書 青森県の観光振興と地域活性化」、単著、2018年6月、弘前大学

[その他]

- 森樹男「学都ひろさきが取り組む『共通授業』」『第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム報告集』、単著、pp.164-167、2019年1月
- 森樹男編「低・未利用水産資源であるムラサキイガイ活用法の開発とブランド化」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、共著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 森樹男「学都ひろさきが取り組む『共通授業』」第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム、単独、はこだて未来大学、2018年9月2日

(4)学外集中講義など

- 黒石商業高校商業科・情報処理科 課題研究「データで考える青森県のインバウンド観光」黒石商業高等学校、2018年5月15日
- 黒石商業高校商業科・情報処理科 課題研究「インバウンド観光客が求めるサービスとは？」、黒石商業高等学校、2018年5月24日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾、グローバル人材育成事業によるスタディツアー、2018年7月3日～8日
- 台湾、弘前市文化遺産フェア視察および協定校訪問、2018年11月13日～17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「日系多国籍企業のアジア地域統括本社の機能高度化とアセアン経済共同体の創設」(研究代表者)、2015年度～2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- JR東日本寄附講義「観光と地域振興」(森樹男)2016年度～2019年度

熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 熊田憲、小杉雅俊「地域金融機関によるクラウドファンディングを用いた新規事業支援における組織間連携の利点と課題についての一考察」『地域未来創成センタージャーナル』第5号、pp.17-25、共著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングによる新規事業支援の組織間連携と課題」産学連携学会第16回大会、共同、山口県教育会館、2018年6月14日

(4)学外集中講義など

- 弘大じょっぱり起業家塾「地域から起こすイノベーション」弘前大学、2018年9月12日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「めざせ！じょっぱり起業家—大学生のチャレンジ2018— 2018年度成果報告会」ヒロロ4階 市民文化交流館ホール、2018年12月21日

高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論、ベンチャー企業論

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 高島克史「ふるさとセンターの機能強化研究について」国立大学法人弘前大学と板柳町との平成29年度連携調査研究事業成果報告会、単独、板柳ふるさとセンター伝承館、2018年4月17日

[講演]

- 高島克史「起業家の考え方」国立大学弘前大学じょっぱり起業家塾、単独、弘前大学、2018年9月26日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾「スタディツアー」

(7)共同研究、受託研究など

- 一般受託研究「板柳町ふるさとセンターの機能強化研究」(研究代表者)2018年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「めざせじょっぱり起業家—大学生のチャレンジ2017」

内 藤 周 子

(1)現在の研究テーマ

- 財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Naito, Shuko, 'Conceptual Frameworks in Financial Accounting: A Comparison of the Structures of Standards Setters' 『弘前大学経済研究』第41号、pp.1-11、単著、2018年12月
- 黄孝春、加藤恵吉、小杉雅俊、内藤周子「自然栽培法を起点とするマネジメント構築の試みと課題」『地域未来創生センタージャーナル』共著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Naito, S., & Carpenter, V., 'Performance evaluation of natural farming in paddy rice fields'. Asia-Pacific Management Accounting Association APMAA 2018 Conference in Tokyo, 共同, Waseda University, 2018年10月29日
- 内藤周子「農業会計に関する基準を適用する企業における利益分析」日本会計研究学会第95回東北部会・研究発表、単独、2019年3月16日

[ディスカッサント]

- 綿引宣道「長岡の産業クラスター形成史」第43回弘前大学経済学会大会・研究発表、2018年10月19日。
- Wen-Hsien Tsai & Shi-Yin J., 'Relationship between Carbon emission, Carbon Tax, Carbon Right,' Asia-Pacific Management Accounting Association APMAA 2018 Conference in Tokyo, Waseda University, 2018年10月29日.
- Wen-Hsien Tsai & Yin-Hwa L., 'Green Product-Mix Decision Analysis under ABC and Industry 4.0 for the Tire Industry,' Asia-Pacific Management Accounting Association APMAA 2018 Conference in Tokyo, Waseda University, 2018年10月29日.

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「農業会計における測定属性の理論形成と財務指標の開発」(研究代表者) 2017年度~2019年度

大 倉 邦 夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 大倉邦夫「社会的協働における協働マネジャーの役割：エコログ・リサイクリング・ネットワークの事例を通して」『人文社会科学論叢』第5号、pp.157-172、単著、2018年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 大倉邦夫「社会的協働の展開と協働マネジャーの役割エコログ・リサイクリング・ネットワークの事例を通して」企業と社会フォーラム第8回年次大会、単独、早稲田大学、2018年9月7日

小 杉 雅 俊

(1)現在の研究テーマ

- イギリスにおける品質原価計算
- プロセスコストモデルの実務適用と展開
- 地域におけるクラウドファンディングの活用
- 農福連携で機能するマネジメント・コントロール・システムについての事例研究

(2)著書、論文、その他

[論文—Published Paper]

- 熊田憲・小杉雅俊「地域金融機関によるクラウドファンディングを用いた新規事業支援における組織間連携の利点と課題についての一考察」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.17-25、共著、2019年2月。

[その他—Working Paper等]

- 小杉雅俊・加藤恵吉「農作物の品質を高めるためのマネジメント・コントロール・システム—農福連携をベースとした農業法人の事例研究—」『日本会計研究学会第77回大会研究報告要旨集』pp.74、共著、2018年9月。
- Masatoshi KOSUGI "Historical Development of the Theoretical Framework of Quality Costing: Consideration about the Limitation of Trade-off Relationship and the Possibility of Process Cost Model", *The 30th Asian-pacific Conference on International Accounting Issues Programs & Proceedings*, pp.415-431, 単独, November 2019.
- Masatoshi KOSUGI and Keikichi KATO "Considerations of the attempt to Strengthen Agricultural Competitiveness: A Case Study of the Collaboration between Agriculture and Welfare", *The 30th Asian-pacific Conference on International Accounting Issues Programs & Proceedings*, pp.502-509, 共著, November 2019.

[その他—プロジェクト事業報告書]

- 黄孝春・加藤恵吉・小杉雅俊・内藤周子「自然栽培法を起点とするマネジメント構築の試みと課題」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.29-32、共著、2019年2月。

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊田憲・小杉雅俊「クラウドファンディングによる新規事業支援の組織間連携と課題」産学連携学会 第16回大会、共同、山口県教育会館、2018年6月14日。
- 小杉雅俊・加藤恵吉「農作物の品質を高めるためのマネジメント・コントロール・システム—農福連携をベースとした農業法人の事例研究—」日本会計研究学会 第77回大会、共同、神奈川大学、2018年9月5日。
- Masatoshi KOSUGI “Agricultural competitiveness with Quality: possibility of the Collaboration between Agriculture and Welfare”, *Accounting Research Seminars*, 単独, University of Sussex, the United Kingdom, September 26, 2018.
- Masatoshi KOSUGI “Historical Development of the Theoretical Framework of Quality Costing: Consideration about the Limitation of Trade-off Relationship and the Possibility of Process Cost Model”, *The 30th Asian-pacific Conference on International Accounting Issues*, 単独, Hyatt Regency San Francisco, the United States of America, November 13, 2018.
- Masatoshi KOSUGI and Keikichi KATO “Considerations of the attempt to Strengthen Agricultural Competitiveness: A Case Study of the Collaboration between Agriculture and Welfare”, *The 30th Asian-pacific Conference on International Accounting Issues*, 共同, Hyatt Regency San Francisco, the United States of America, November 13, 2018.

[講演]

- 小杉雅俊・加藤恵吉「管理会計的視点から見た農福連携」平成30年度地域未来創生センターフォーラム『自然栽培と農福連携—オリンピック・パラリンピック食材の供給—』、共同、弘前大学、2019年1月26日。
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- 2018年9月7日～2018年10月3日 イギリス。
 - 2018年11月9日～2018年11月16日 アメリカ。
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 (B)「イギリスにおけるトレードオフ関係を使わない新しい品質コストマネジメントの研究」(研究代表者)、2017年度～2018年度。

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 公認会計士・監査審査会 特別講演「職業としての監査—公認会計士の魅力—」(公認会計士・監査審査会常勤委員 松井隆幸先生)、弘前大学、2018年6月4日。
- 平成30年度 地域未来創生センターフォーラム「自然栽培と農福連携—オリンピック・パラリンピック食材の供給—」、弘前大学、2019年1月26日。

[それ以外のもの]

- 日本会計史学会 第37回大会 (学会幹事としての大会運営補佐)、日本大学、2018年10月13日～2018年10月14日。
- 弘前大学経済学会 第43回大会 (学会事務局員としての大会運営)、弘前大学、2018年10月19日。

経済システム講座

池田 憲 隆

(1)現在の研究テーマ

- 1883年から実施された長期軍備拡張計画の政治経済的影響について

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 池田憲隆「1883年以降の軍備拡張計画に基づく日本海軍の艦船輸入について (下)」『人文社会科学論叢』第5号、pp.173-181、単著、2018年8月31日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 池田憲隆「1883年度以降の軍備拡張計画に基づく日本海軍の艦船輸入について」2017年度政治経済学・経済史学会秋期學術大会、単独、大阪商業大学、2017年10月20日～21日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (C)「近代日本における長期軍備拡張計画が及ぼした政治経済的影響に関する研究」(研究代表者) 2016年度～2018年度

細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 細矢浩志「欧州自動車メーカーの電動化戦略と生産ネットワークの再編」立教大学経済研究所公開講演会「欧州自動車産業の再編とEUのクリーンモビリティ」、単独、立教大学池袋キャンパス、2019年3月2日
- 細矢浩志「再生可能エネルギーで地域未来創生を考える」地域未来創生塾@中央公民館、単独、弘前文化センター第3会議室、2019年2月13日
- 細矢浩志「自然（再生可能）エネルギーは「地方創生」の起爆剤になるか？」地方再生・政策科学研究会（第3回）、単独、青森県庁、2018年8月29日
- 細矢浩志「欧州統合と中東欧自動車産業の発展 欧州自動車生産ネットワークの進化」政治経済学・経済史学会2018年秋季学術大会、単独、一橋大学、2018年10月20日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「欧州自動車多国籍企業の生産ネットワーク戦略の基本構造と進化に関する実証的研究」（研究代表者）2017年度～2020年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国内共同研究「人口80万人時代の青森を考える：経済学の視点から」青森県庁、2018年度
- 国内共同研究「EVシフトと生産・インフラ・ネットワークの再構築」立教大学、2018年度

黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、コメの自然栽培、鉄鉱石価格の決定方式

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 黄孝春、加藤恵吉、小杉雅俊、内藤周子「自然栽培法を起点とするマネジメント構築の試みと課題」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.29-32、共著、2019年2月

[その他]

- 黄孝春「海外りんご事情」『林檎商組日報』単著、2018年8月21日
- 黄孝春「りんご「高密植」拡大」『日本農業新聞』単著、2018年10月28日
- 杉山修一、黄孝春、張立功「自然栽培の科学と技術」『果農之友』共著、2018年7月
- 杉山修一、黄孝春、張立功「為什么 害虫能 得到控制：植物免疫功能」『中国農業科学院鄭州果樹研究所』単著、2018年6月
- 杉山修一、黄孝春、張立功「害虫是如何消失的：生物之間相互作用網絡的影響」『果農之友』単著、2018年5月
- 杉山修一、黄孝春、張立功「土壤微生物使土地肥沃」『果農之友』単著、2018年4月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 黄孝春「世界のりんご産業の趨勢と青森の対応」フードバリューチェーントータル実証事業産地説明会「りんご産業の明日を考える」、弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ）、2019年3月15日
- 黄孝春「趣旨説明」、「自然栽培と農福連携」、弘前大学創立50周年記念会館、2019年1月25日

[講演]

- 矮化研究会、「りんご産業が進むべき道」2018年12月17日
- 青森県農業法人協会、「世界のりんご産業と高密植栽培」2019年2月21日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2018年9月19日-26日 イタリア南チロル、りんご高密植栽培の現地調査
- 2019年2月4日-10日 ドイツベルリン、Friuts Logistic Berlinに参加

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「資源価格スーパーサイクルと資源企業の適応行動」（研究分担者）2016年度～2018年度
- 国内共同研究「日本における農産物認証制度に関する学術的研究の評価」一般社団法人GAP普及推進機構、2018年9月～2019年2月

- 国内共同研究「高密植ワイ化栽培が必要とする低価格の苗木供給に関する調査研究」弘果総合研究開発（株）、2018年8月～2019年2月
 - 国内共同研究「GLOBALG.A.P.管理点と適合基準「苗木編」啓蒙普及の調査研究」合同企業 amRex、2018年8月～2019年5月
- (7)共同研究、受託研究など
- 青森県西北地域県民局「西北におけるコメ生産のリスクの把握と評価方法の調査研究」(研究代表者) 2017年度
 - 一般受託研究「クラブ制導入によるりんご輸出体制の再構築」wismettac フーズ株式会社、2019年1月～2019年3月
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 平成30年度地域未来創生センターフォーラム「自然栽培と農福連携」2019年1月26日
- [それ以外のもの]
- フードバリューチェーントータル実証事業産地説明会「りんご産業の明日を考える」、弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ）、2019年3月15日

李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターナー者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 李永俊『Return of Youth』、共著、2018年10月、Park-Young Sha
- 李永俊『よくわかる青森県の経済と産業』、共著、2019年3月、青森地域社会研究所

[論文]

- 李永俊、山口恵子「大学における地域志向教育が地域愛着と就職地選択意識に及ぼす影響？弘前市における大学生への質問紙調査より」『都市社会研究』第10号、共著、2019年3月
- 李永俊「小規模被災地における人口動態と復興政策 岩手県九戸郡野田村の事例から」『NETT』第101巻、pp.36-39、単著、2018年7月2日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊「大学における地域志向教育が地域愛着と就業地選択意識に及ぼす影響 弘前市における大学生への質問紙調査より」第65回東北社会学会大会、共同、岩手県立大学、2018年7月15日
- 李永俊「Encouraging Endogenous Recovery from the 3.11 East Japan Earthquake & Tsunami: Collaborative Practice and Action Research with Local Survivors and Disaster Volunteers for 7 years」The 9th conference of the international society for integrated disaster risk management、単独、Sisney, Australia、2018年9月2日～2018年9月4日

[講演]

- 子どもの貧困を考える、市民ボランティア講座、弘前大学ボランティアセンター主催、2018年6月
- 誰にもできる災害ボランティア、在日本大韓民国婦人会全国研修会、2018年6月
- 災害とボランティア活動、弘前市防災マイスター育成講座、2018年6月
- 地方大学の新しい役割、韓国慶北大学校特別講演、2018年9月10日
- 人口減少が地域の暮らしに与えた影響、東北ブロッククラブネットワークアクション2018、2018年11月24日
- 人が働く意味、地域企業と学校のネットワーク会議、2019年1月29日
- 人口減少と地域経済の未来、秋田県立大館鳳鳴高等学校大学模擬講義、2019年1月31日
- 地元企業の人材採用力とは、雇用対策フォーラム八戸サテライト、2019年2月7日
- 「地域と共に歩む」センターを目指して、三重大学人文学部シンポジウム「文系学部における地域をフィールドとした教育研究の報告性」、2019年2月8日
- 人口80万人時代の青森を考える、地域未来創生塾、2019年2月26日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- オーストラリア・シドニー、出張、2018年9月30日～2018年10月6日

- 韓国・大邱市、学生海外PBLプログラム引率、2018年9月9日～9月14日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究 (B)「被災コミュニティの内発的復興を支えるアクションリサーチ」(研究分担者) 2017～2019年度
 - ほくとう総研地域活性化連携支援事業「小規模被災地域における人口動態と復興対策」(研究代表者) 2017年度
 - 二国間交流事業セミナー「地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策」(研究代表者) 2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生塾、2018年10月～2019年9月計10回
- 東日本大震災からの復興を考える、地域未来創生センター、2019年3月10日

[それ以外のもの]

- 市民ボランティア講座「子どもの貧困を考える」弘前大学ボランティアセンター、2018年6月
- 市民ボランティア講座「災害ボランティア活動—わたしたちができること」弘前大学ボランティアセンター、2018年12月
- 市民ボランティア講座「広がれこども食堂の輪全国ツアー in 青森」弘前大学ボランティアセンター、2019年2月

福田進治

(1)現在の研究テーマ

- リカードの経済理論

(2)著書、論文、その他

[報告]

- 青森県再生可能エネルギー活用促進協議会「自治体新電力が成立する最小規模を探る調査研究」平成30年度地域エネルギー事業形成促進支援事業成果報告書、1-80頁、共著、2019年3月

[その他]

- 福田進治「大学生の成果発表—消費者市民社会形成の取り組み—」『弘前大学における消費者教育推進の取り組み』(2018年度弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業報告書)、pp.25-27、共著、2019年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「菱山泉のリカード研究」第60回経済思想研究会、単独、東北大学、2018年4月15日
- 下平裕之、福田進治「テキストマイニングの経済学史への応用と事例」第62回経済思想研究会・第4回「戦争と平和の経済思想」研究会、共同、長崎大学、2018年9月11日

[講演]

- 福田進治「福島第一原発事故避難者の現状」第27回市民講座(核燃・だまっちゃおられん津軽の会)、単独、弘前市民参画センター、2018年6月4日
- 福田進治「平成30年度消費者教育学生セミナー報告」学生による消費生活フェスタ(青森県消費者協会・大学生の消費者教育実践運営検討会議)、単独、青森明の星短期大学、2018年11月18日
- 福田進治「自治体新電力の課題と展望」平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業鯉ヶ沢ワークショップ(青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・鯉ヶ沢町)、共同、鯉ヶ沢町役場、2019年1月16日
- 青森県再生可能エネルギー活用促進協議会「自治体新電力が成立する最小規模を探る調査研究」青森県のポテンシャルを活かした新エネルギー開発・事業化研究報告会(青森県・青森COC+推進機構)、共同、ねぶたの家ワ・ラッセ、2019年2月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「リカード・マルサス論争と古典派経済学の展開：その交錯と対抗および現代性の研究」(研究分担者) 2017年度～2021年度
- 基盤研究 (B)「経済理論の大衆化から経済政策の形成へ：テキストマイニングを応用した実証研究」(研究分担者) 2015年度～2019年度
- 基盤研究 (C)「日本のリカード研究の独自性と多様性に関する研究」(研究代表者) 2015年度～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業(青森県委託研究)「自治体新電力が成立する最低条件を探る研究」(青森県民エナジー株式会社、弘前大学人文社会科学部、鯉ヶ沢町) 2018年7月～2019年3月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成30年度地域エネルギー事業案件形成促進支援事業鱈ヶ沢ワークショップ（青森県民エナジー株式会社・弘前大学人文社会科学部・鱈ヶ沢町）、鱈ヶ沢町役場、2019年1月16日
- 弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業「消費者フォーラム in HIROSAKI～消費者教育を多角的に考えよう～」(弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会)、弘前大学、2019年1月26日

飯島裕胤

(1)現在の研究テーマ

- 企業金融論（とくに、企業買収の経済分析、企業の利益配分について）

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 飯島裕胤、三田村浩「労働者保護法制のあり方と不振企業の再編」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第15号、pp.3-15、共著、2019年3月
- 飯島裕胤「指定管理者制度における創発と競争のトレードオフ」『地域未来創生センタージャーナル』第5号 pp.5-16、単著、2019年2月
- 飯島裕胤、家田崇「企業による産業財産権保全活動とその社会的最適性」『人文社会科学論叢』第6号 pp.205-216、共著、2019年2月28日

[その他]

- 飯島裕胤「政策科学研究会について」『地域未来創生センタージャーナル』第5号、pp.93-98、単著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 飯島裕胤「人口80万人時代の青森の銀行業」政策科学研究会、単独、青森県庁、2018年6月27日

山本康裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 山本康裕「岩手県のマクロ経済と非伝統的金融政策」『人文社会科学論叢』第6号、pp.217-233、単著、2019年2月28日
- 山本康裕「秋田県のマクロ経済と非伝統的金融政策：構造VARモデルによる検証」『人文社会科学論叢』第5号、pp.183-219、単著、2018年8月

小谷田文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

(2)著書、論文、その他

[論文]

- AAPO JUMPPANEN, FUMIHIKO KOYATA, TIMO SUUTARI 「"If you run after two hares, you will catch neither?" The cooperation between universities and food sector companies in Aomori prefecture and South Ostrobothnia region.」『University of Helsinki Ruralia Institute Reports』第184巻、pp.1-34、共著、2018年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Aapo Jumppanen, Fumihiko KOYATA 「"Parempi pyy pivossa kuin kymmenen oksalla?" Tutkijoiden ja elintarvikealan yritysten yhteisty?muodot Aomorin alueella ja Etel?-Pohjanmaalla" "Parempi pyy pivossa kuin kymmenen oksalla?" Tutkijoiden ja elintarvikealan yritysten yhteisty?muodot Aomorin alueella ja Etel?-Pohjanmaalla、共同、University of Helsinki Ruralia Institute、2018年8月24日
- 小谷田文彦「地域間産業連関分析による人口80万人時代の青森県経済」第5回政策科学研究会、共同、青森県庁、2019年2月19日

金目哲郎

(1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 金目哲郎「第4章 ナショナル・ミニマム概念と地方交付税制度」、門野圭司編著『生活を支える社会のしくみを考える』、pp 99-121、分担執筆、2019年2月25日、日本経済評論社

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ポーランド、高等教育フェアの視察ほか、2018年9月19日～27日
- 韓国、地域経済に関する研究打合せ、地域活性化事例の視察、2018年11月30日～12月5日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 学部「地域課題研究」受講学生による「学習成果発表会」、弘前市役所、2018年7月25日
- 財政学ゼミナール合同大会「研究成果発表会」、下関市、2018年8月31日～9月2日

桑波田 浩之

(1)現在の研究テーマ

- グローバル化が所得格差へ与える影響、国際貿易の実証分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 桑波田浩之「輸出が企業内所得格差へ与える影響—日本企業のデータを用いた実証分析—」『輸出が企業内所得格差へ与える影響—日本企業のデータを用いた実証分析—』、単著、2018年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Hiroyuki Kuwahata「Globalization and within—firm wage inequality: evidence from Japan」日本国際経済学会、第8回春季大会、単独、北海道大学、2018年6月16日
- 桑波田浩之「グラビティ・モデルを用いたりんごの輸出の推計」第3回 政策科学研究会、単独、青森県庁、2018年8月29日
- Hiroyuki Kuwahata「Does performance pay increase within—firm wage inequality？」日本経済学会2018年度春季大会、単独、学習院大学、2018年9月8日～2018年9月9日
- Hiroyuki Kuwahata「Does exporting increase within—firm wage inequality」単独、University of Tennessee Martin、2018年9月20日
- Hiroyuki Kuwahata「Does exporting increase within—firm wage inequality?」単独、University of Maine、2019年3月27日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 弘前大学 教員交流プログラム、University of Tennessee Martin、2018年9月13日～28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「企業のグローバル化と情報通信技術が所得格差に与える影響に関する計量実証的研究」(研究代表者) 2017年度～2018年度

公共政策講座

平野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平野潔「過失の共同正犯における主観的要件」『日高義博先生古稀記念論文集 [上巻]』 pp.591-609、単著、2018年10月20日
- 宮崎秀一、平野潔、飯孝行「地域社会における模擬裁判員裁判「コミュニティ・コート」の意義と課題」『法と教育』第8号、pp.39-47、共著、2018年8月27日

[その他]

- 平野潔編『青森県の地域司法と支える人たち—裁判員裁判・司法制度・更生保護—』pp.1-144、2019年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 平野潔「弘前大学における裁判員裁判研究・教育プロジェクトについて」日本弁護士連合会司法シンポジウム勉強会V、単独、弁護士会館、2018年5月7日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 裁判員制度シンポジウム「裁判員の経験を活かす」、弘前大学、2018年11月24日

児山正史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉の選択制、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 児山正史「準市場の優劣論と介護保険制度導入後の結果（3）」『人文社会科学論叢』第5号、pp.229-254、単著、2018年8月
- 児山正史「準市場の優劣論と介護保険制度導入後の結果（4・完）」『人文社会科学論叢』第6号、pp.235-249、単著、2019年2月
- 児山正史「準市場の優劣論と障害者福祉の選択制（1）」『人文社会科学論叢』第6号、pp.251-257、単著、2019年2月

白石壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- 移住・移動とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）方法論など

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 白石壮一郎「Uターン專業漁師の引退への段階：人口減少地で年をとること」、安藤丈将・川端浩平編『サイレント・マジョリティーとは誰か：フィールドから学ぶ地域社会学』、pp.87-110（分担執筆）、単著、2018年12月、ナカニシヤ出版
- 白石壮一郎・杉山祐子・近藤史「人類学の挑戦」、平井太郎編『ポスト地方創生：大学と地域が組んでどこまでできるか』、pp.124-160（分担執筆）、共著、2019年3月、弘前大学出版会

[その他]

- 白石壮一郎「ウラとヤマのしごと：風間浦村」、羽瀨一代編『大学的青森ガイド』、pp.37-49（分担執筆）、単著、2019年3月、昭和堂
- 白石壮一郎「移動と将来」、トランスローカリティ研究会『青森20-30代住民意識調査』、pp.43-60（分担執筆）、単著、2018年12月、公益財団法人マツダ財団
- 白石壮一郎「イエコの結婚」、『遊牧の思想：人類学がみる激動のアフリカ』、pp.256-258（分担執筆）、単著、2019年3月、昭和堂

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Soichiro SHIRAIISHI 'Journey toward Social Mobility: Case of Migration and its Success in Kenya- Uganda Borderlands in 1960s-70s'. *Nordic Africa Days 2018*, at Uppsala University, The Nordic Africa Institute, Sweden. September 2018

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ケニア共和国ナイロビおよびエルドレットにおいて、高卒・大卒若年層の雑業就業状況とアスピレーション維持に関する参与観察調査、2018年8月中旬～9月初旬
- ザンビア共和国国立ザンビア大学人文社会科学部訪問、研究・教育連携に関する打合せ、2018年9月
- ウガンダ共和国にて開催の日本留学フェア（文部科学省・北海道大学主催）および日本留学セミナー（文部科学省・北海道大学・立命館アジア太平洋大学主催）への参加・講演、2019年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「東アフリカにおける高卒若年滞留層のライフコースと地方定着化／再流動化モデルの構築」（代表：白石壮一郎）

一郎)、2015~2018年度

- 基盤研究 (B) 「トランスローカリティの社会学：条件不利地域と地方中枢拠点都市の生活とキャリア」(代表：羽淵一代)、2018~2021年度

長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム、ギグ・ワーカー

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 長谷河亜希子「ギグ・ワーカーと経済法」『法律時報』第91巻、第3号、pp.76-79、単著、2019年2月

[その他]

- 長谷河亜希子「『日本の法』と法学教育 編者・著者の立場から」『法の科学』第49号、pp.98-101、単著、2018年9月
- 土田和博、渡辺昭成、長谷河亜希子、青柳由香「学会回顧(経済法)」『法律時報』第90巻、第13号、pp.130-138、共著、2018年12月
- 長谷河亜希子「国外でカルテル合意がされ、国外の子会社に当該商品が引き渡された国際価格カルテルに日本の独禁法が適用され課徴金が課された事例 テレビ用ブラウン管国際カルテル事件最高裁判決」『判例秘書ジャーナル』単著、2018年10月15日

(4)学外集中講義など

- 2018年度夏季集中講義「経済法」福島大学2018年9月11~14日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「優越的地位の濫用(相対的優越的地位の濫用)問題に関する民事訴訟の役割と問題点」(研究代表者)2016年度~2018年度

近 藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展。生態環境の利用と保全。

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 近藤史、高橋基樹、小國和子、荒木美奈子『国際開発学事典』共著、2018年12月1日、丸善出版
- 伊谷樹一、伊藤詞子、大山修一、黒崎龍悟、近藤史、杉山祐子、寺嶋秀明、山本佳奈『掛谷誠著作集 2 呪医と精霊の世界』共著、2018年5月、京都大学学術出版会
- 伊谷樹一、伊藤詞子、大山修一、黒崎龍悟、近藤史、杉山祐子、寺嶋秀明、山本佳奈『掛谷誠著作集 3 呪医と精霊の世界』共著、2018年7月、京都大学学術出版会
- 近藤史『大学的青森ガイド』共著、2019年3月30日、昭和堂

[論文]

- 白石壮一郎、杉山祐子、近藤史「人類学の挑戦」『ポスト地方創生 大学と地域が組んでどこまでできるか(弘前大学出版会)』共著、2019年3月11日

[その他]

- 杉山祐子、日比野愛子、曾我亨、近藤史、古村健太郎、平井太郎、諏訪淳一郎「地域の持続性に向けた共創手法の構築」『域未来創生センタージャーナル』共著、2019年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 近藤史「古老が語る植林地経験から植林普及の手がかりを探る」研究会「アフリカの環境とエネルギー」、単独、宮地交流宿泊所こぶし(石川県)、2019年3月17日~2019年3月19日
- 近藤史「植林が林業に育つとき、育たないとき」日本アフリカ学会第55回大会、単独、北海道大学、2018年5月26日~2018年5月27日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- タンザニア連合共和国、海外学術調査、2018年8月~2018年9月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(研究分担者) 2015年度～2019年度

吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究
- 相続法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉村顕真「未成年者の不法行為責任における過失判断基準——アメリカ法の『未成年者の注意基準』に着目して——」『青森法政論叢』第19号、pp.64-83、単著、2018年8月31日

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 吉村顕真「未成年者の不法行為責任における過失判断基準」民法研究会、単独、大阪市立大学、2018年6月30日
- 吉村顕真「アメリカ統一商事法典における契約当事者の救済」Remedies研究会、単独、愛知大学、2018年5月27日
- 吉村顕真「アメリカ不法行為法における損害賠償の目的とその救済の概要」Remedies研究会、単独、愛知大学、2018年9月2日
- 吉村顕真「アメリカ不法行為法における人身損害賠償額の調整」Remedies研究会、単独、愛知大学、2018年12月16日

[講演]

- 模擬授業「成年年齢引き下げによって何が変わるの?——契約に着目して——」黒石高校、2018年10月18日
- 模擬授業「成年年齢引き下げによって何が変わるの?——契約に着目して——」八戸聖ウルスラ学院高校、2018年10月29日

(4)学外集中講義など

- 教員免許更新講習「家族と法」単独、弘前大学、2018年8月20日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究B:平成30年度 弘前大学科研費獲得支援事業

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 吉村顕真、青森家庭少年問題研究会「資料から見る成年後見制度の利用状況の変化」単独、弘前大学、2018年7月7日
- 吉村顕真、「平成29年民法改正における売上の担保責任」青森県行政書士会研修会、単独、ヒロロ、2019年3月8日

成田 史子

(1)現在の研究テーマ

- 労働法、企業組織再編

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 成田史子「会社分割における労働契約の承継(特集 実定法による労働契約締結強制法理)」『法律時報』、第90巻、pp.7-26、単著、2018年6月

[その他]

- 成田史子「評論・労使関係法(第93回)事業譲渡実施計画過程における支配介入の成否:桐原書店(事業譲渡)事件(東京都労委決定平成二九・九・一九中労委HP・命令・裁判例DB)について」『中央労働時報』第1236号、pp.16-23、単著、2018年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 成田史子「(国家公務員等の)配偶者同行休業制度の検討」労働問題リサーチセンター研究会、単独、2019年2月26日
- 成田史子「事業譲渡計画の実施過程における支配介入」東北大学社会法研究会、単独、2018年6月23日

- 成田史子「桐原書店（事業譲渡）不当労働行為審査事件・都労委平成27年（不）第84号その1」東京大学労働判例研究会、単独、2018年6月15日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 若手研究（B）「格差社会における総合的労働法政策 比較法研究を踏まえた日本型格差是正政策」（研究分担者）2017年～2019年度
 - 若手研究（B）「企業組織再編手続における労働者保護規範の解釈論・立法論的提案」（研究代表者）2016年～2019年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
[それ以外のもの]
 - 東北税理士会「集合研修」での講演、2018年09月

河 合 正 雄

- (1)現在の研究テーマ
 - 受刑者の権利
- (2)著書、論文、その他
[論文]
 - 河合正雄「ヨーロッパ人権条約3条にてらした刑事施設内の処遇環境」『人文社会科学論叢』第6号、pp.259-276、単著、2019年2月28日、弘前大学人文社会科学部
 [その他、判例評釈]
 - 河合正雄「18受刑者の懲罰手続の公正 受刑者の懲罰手続と公正な審理を受ける権利 エゼおよびコナーズ判決」小畑郁・江島晶子・北村泰三・建石真公子・戸波江二編『ヨーロッパ人権裁判所の判例Ⅱ』pp.127-130、単著、2019年3月30日
 - 河合正雄「36絶対的無期刑と条約3条 仮釈放の可能性のない無期刑は条約3条に反する ヴィンター判決」小畑郁・江島晶子・北村泰三・建石真公子・戸波江二編『ヨーロッパ人権裁判所の判例Ⅱ』pp.215-219、単著、2019年3月30日
 [その他、報告]
 - 河合正雄「Prisoners' Rights in Japan and the Reference to International Human Rights Law」『人文社会科学論叢』第5号、pp.265-274、単著、2018年8月31日
- (3)研究発表、講演
[研究発表]
 - 河合正雄「刑事施設内の処遇環境とヨーロッパ人権条約3条」2018年度東北民科夏季合宿研究会、単独、青根温泉 山景の宿 流辿、2018年8月31日～9月1日
 - KAWAI Masao「The Potential Impact of Case Law of the European Court of Human Rights on Prison Litigation in Japan」Joint Workshop: Significance of the comparative study of the caselaw of the European Court of Human Rights in Asia、単独、Surugadai Campus, Meiji University、2019年2月10日
- (4)学外集中講義など
 - 2018年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2018年9月18日～20日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - 若手研究（B）「受刑者の社会復帰に資する憲法解釈の刷新—国際人権法に基づく司法の関与の検討」（研究代表者）2016～2018年度